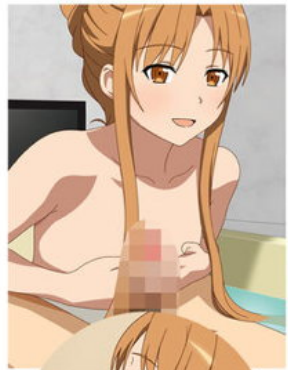


箱入りお嬢様、衝撃のAVデビュー!

GS  
glam sight

新人

19歳合法女子学生



ガチで有名な企業の社長令嬢が衝撃のAVデビュー。中高一貫の有名私立お嬢様学校出身で、非の打ち所のない令嬢アスナちゃん。ただやはり実家は名家ということもあり、大学教授の母から幼い頃より厳しくしつけられたせいで、その反動からHな事への興味が抑えきれなくなっただとか。



本中



エッチなごときも超優等生!

- CONTENTS
- ①インタビューからの乳揉み&フェラ
  - ②ソファでのバックSEX中出し
  - ③お風呂場でハイズリ
  - ④マイクロピキニで手コキ&中出しSEX
  - ⑤3P+おまけ



新人箱入りお嬢様アスナAV DEBUT



妊娠確定の…大量中出し!!



NTR

箱入りお嬢様アスナ

AV DEBUT

GS 企画制作 グラムサイト  
<https://www.glamsight.jp/>  
 JPE/G/PDF/COLOR | 2400x1800px  
 SAO-01 | 105min | 800YEN



●このCG集は18歳未満への販売・貸し出しを禁じます。  
 ●このCG集の無断複製、及びネット上へのUPは禁止します。  
 ●この作品には18歳未満の人物は出演していません。

DOJIN R18 成人向け 購入・閲覧禁止

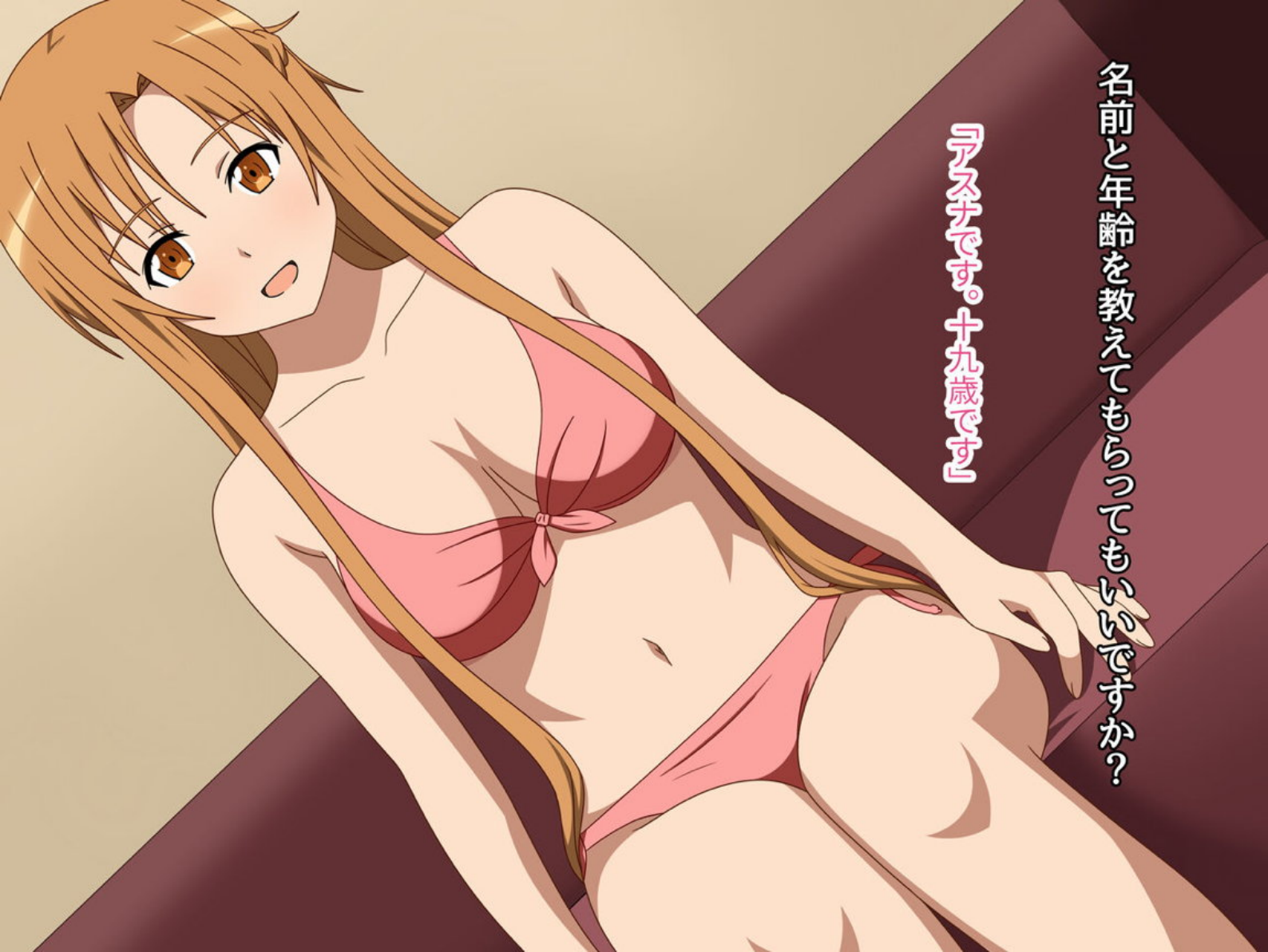
105 minutes  
 税込価格 ¥800  
 SAO-01



新人箱入りお嬢様アスナ  
AV DEBUT

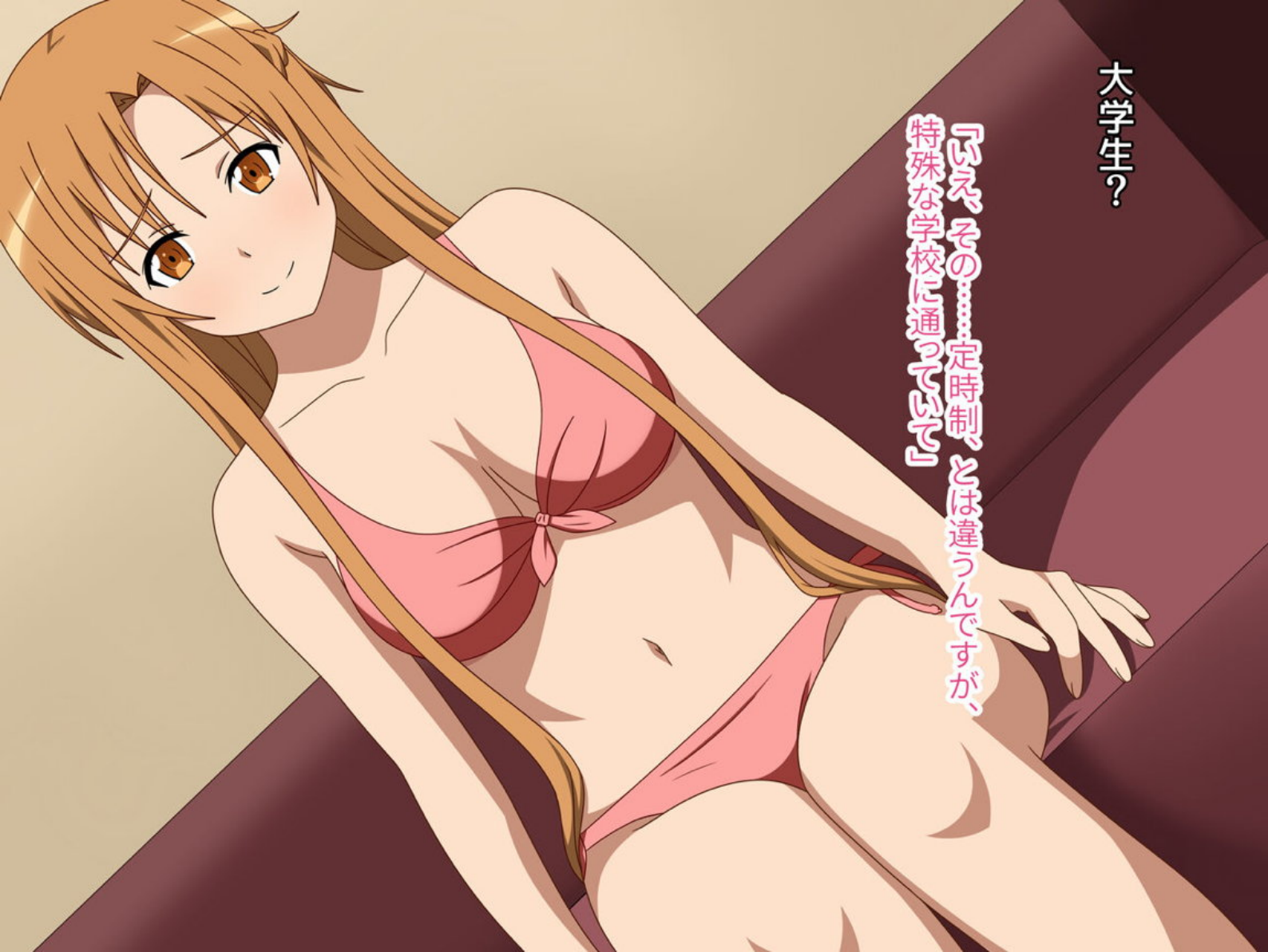
名前と年齢を教えてください。もういいですか？

「アスナです。十九歳です」



大学生？

「いえ、その……定時制、とは違うんですが、  
特殊な学校に通っていて」





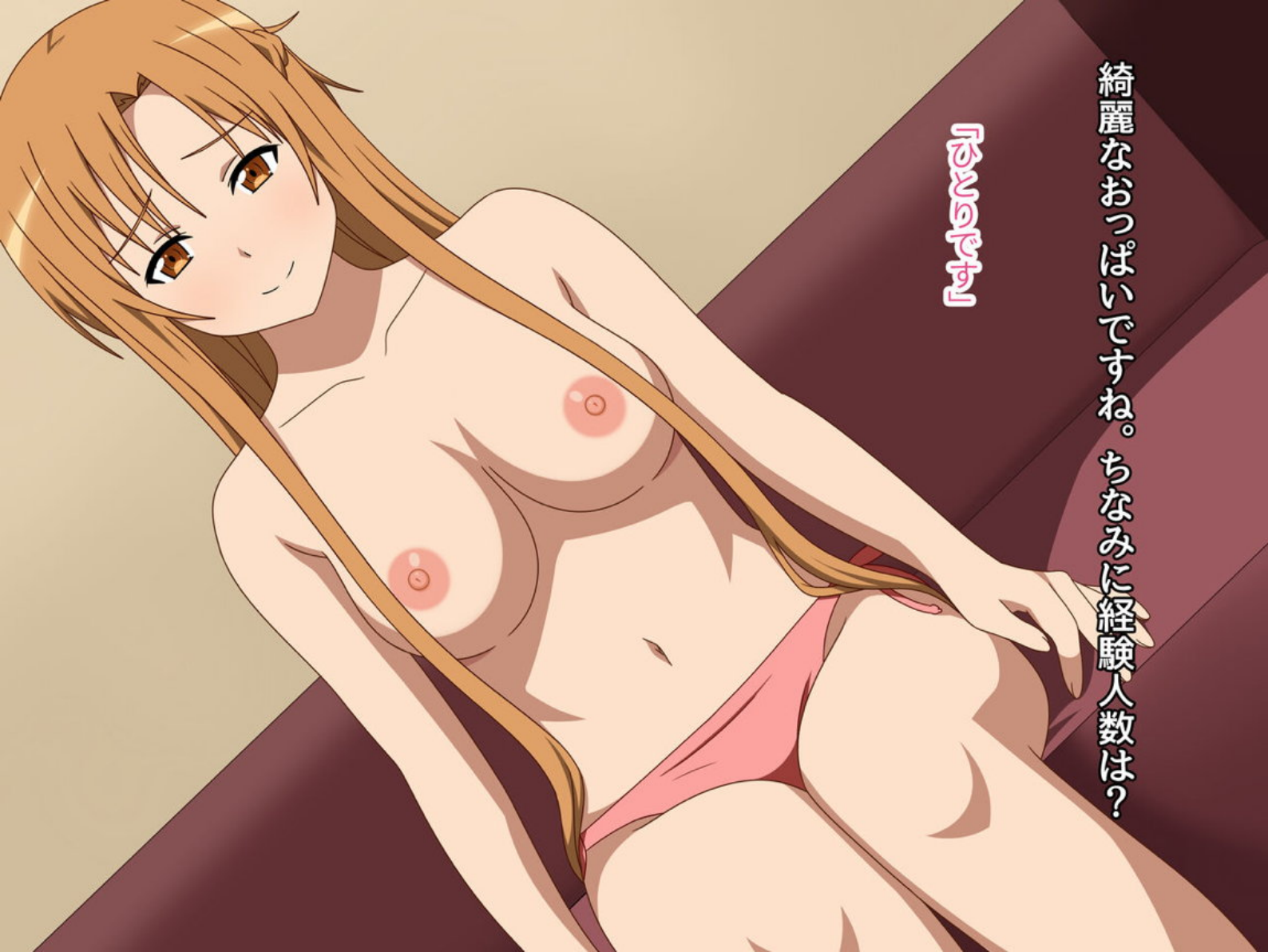
例のゲームの帰還者を支援するための学校ですね。  
この場合ちゃんとした高校でもないし、年齢も  
十九だし、合法女子学生……って考えると法の穴を  
ついてる感があり興奮しちゃいますね……って失礼。

「あはは……」



さて、そんなアスナちゃんには今、  
水着を着てもらっているわけですが、  
さっそく上を脱いでもらいましょうか。

「あ、はら」



「moept」

綺麗なおっぱいですね。ちなみに経験人数は？

彼氏？  
今も付き合っているの？


「あん♡  
そっ♡はい♡」

「ん♡」

「ん♡」







彼氏がいるのに、今回撮影に応募したんですね。  
エッチが好きなのかな？

「んっ……好き、かな。好きかも♡」

ほむっ

「それじゃあ、とりあえずしゃぶってみようか」

「ほむ……♡」



「……おっぱい舐めたいわね」

「んちゅ、ちゅ、ちゅ、ん」

ちゅちゅちゅ

んちゅ



「ああ……アスナちゃん、めちゃくちゃ上手だね。  
彼氏のために勉強したのかな？」

「ぢゅるる、ぢゅぶ、んん」

ぢゅるるるっ

んん



「んっんっんっ」

「あー、ヤバい。イキそう。イクよ？  
……んっ」

セ  
キュ  
ルッ





「んっ、く……ゴクン」

ゴクン

「飲んでくれたんだ。やっべー、興奮して勃起が  
治らないよ。このまましちゃおうか。  
ほら、下も脱いでソファに手をのびて……」

「それじゃあ彼氏のじゃないチンポ、  
挿入れちゃうよ？」

「はい……♡」

ア  
ニ  
メ

「うお、なんだこれ。めっちゃ狭いじゃん」

「んはあ、キリトくんより大きい♡」

「やっべえ、これほとんど処女じゃね？  
気持ち良すぎて腰止まんないんだけど」

パン

パン

パン

パン



「どう、アスナちゃん。  
俺のチンポは気持ちいい?」

「んん、いい。オマンコ」の奥、今まで届いた  
「このないところ」まで届いてきもちいいのぉ♡」

「はー、ヤバイ。もうイッちゃいそうだよ。  
このまま中に出していい?」

パン

パン

パン

パン

おん

「いいの、きてえ♡」

オマン「の奥にビュッビュッしてえ♡」

「妊娠するかもしれないけど、いいんだね？」

「いいの、妊娠してもいいから、  
子宮に精子ビュッってしてえー！」

「うおおおおー！」

グ  
オ  
ン

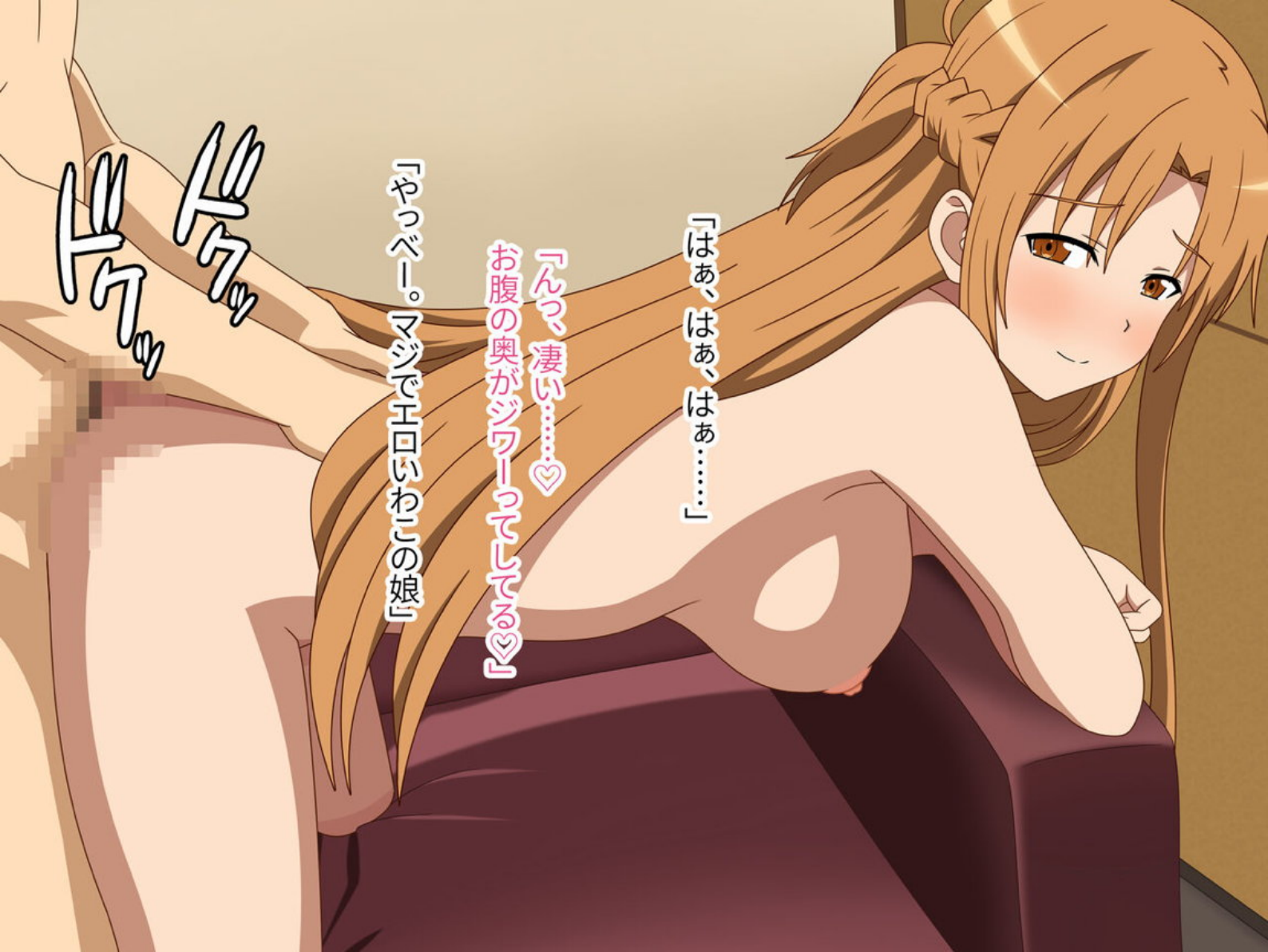
「はあ、はあ、はあ……」

「んっ、凄い……♡」

「お腹の奥がジワーってしてる♡」

「やっペー。マジでエロっわいの娘」

ドクッ  
ドクッ



「それじゃあアスナちゃん、  
オマンコ広げてみようか」

「うう、ですか……？」



く  
は  
あ、

「そっそっ、  
そっやってお腹に力入れて」

「んん……っ」

「いいねー、エロいねー」

Handwritten signature in white ink, possibly reading 'あま' (Ama).



「そういえば、アスナちゃんって  
パイパンなんだね」

「あつ、はい。」

「キリ……彼氏がこの方がいいからって」

「献身的だねー。彼氏が羨ましいよ」

ゴッ



「そんなこと……(照)」

「よし、それじゃあ休憩がてら  
お風呂入ろうか」

アハ



「えい♡」

「おおっ。

いやー、アスナちゃんのおっぱいって  
本当最高だよね」

「そんなことないですよ。  
友達とかもっと大きい娘いますし」

4ニッ



「いやいや、大きければいいってもんでもないから」

「そうなんですか？」

「そうなのよ。やっぱり柔らかさとか感度とか乳首の色とか色々あるから。その点、アスナちゃんの美乳はほぼ満点といってもいい」

「あはは……」



「あー……てか、もうイク。  
このまま顔にぶっかけてもいい？」

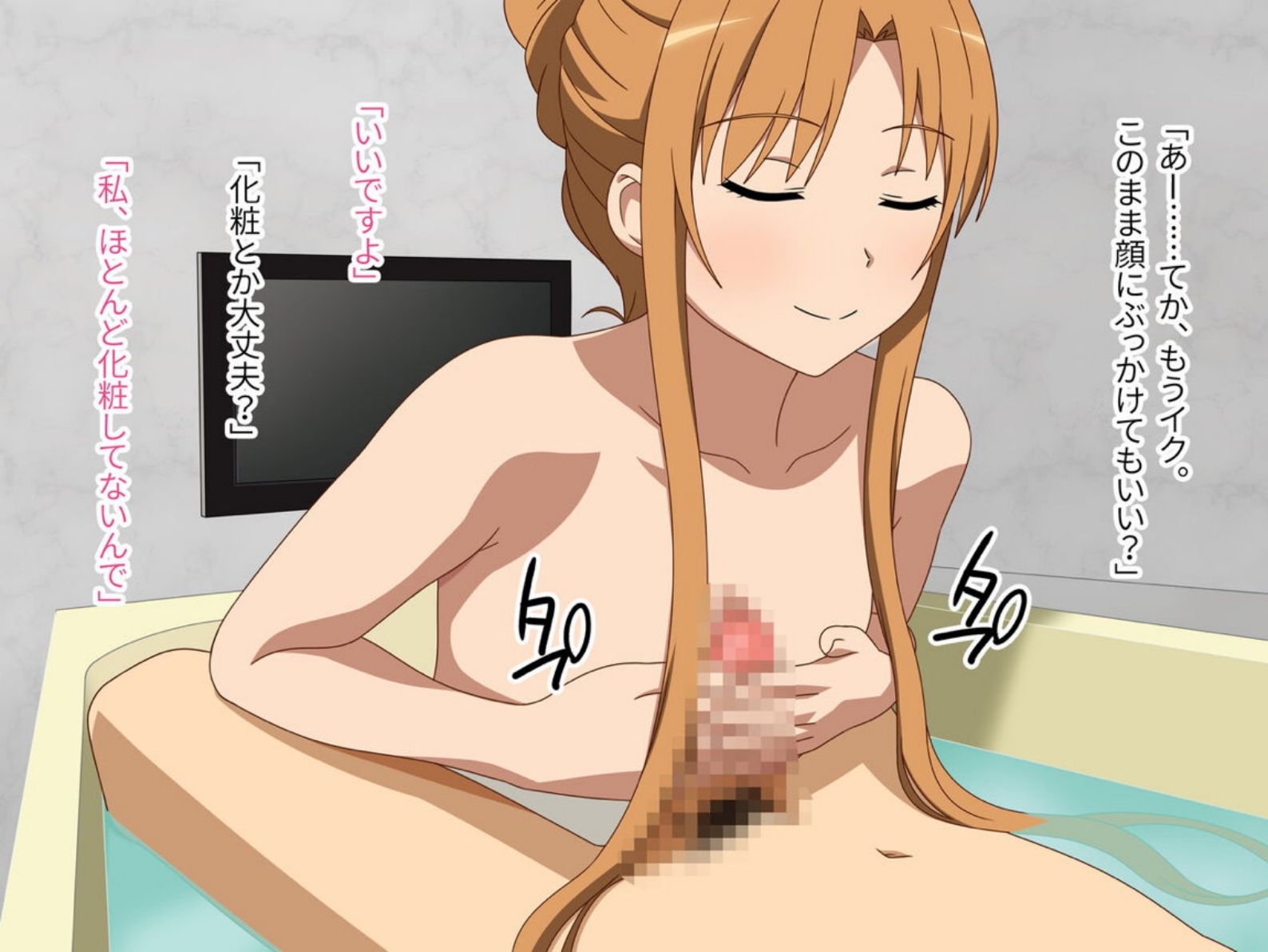
「うん、いいよ」

「化粧とか大丈夫？」

「私、ほとんど化粧してないんで」

あ

あ



「マジか………うー」

ゴキウゴキウ

「あは、オチンチンからビューッて♡」

「アスナちゃん、マジステイシア神」



「……はい、じゃあお風呂から上がって、  
アスナちゃんには新しい水着を着てもらいました。  
♪♪♪」

「えっと、布の面積が減っちゃって、  
ちよっと恥ずかしいですね」

「んー」



「普通のビキニも似合ってたけど、  
マイクロビキニも超似合ってる。  
彼氏は「コスプレ」とかの趣味はないの？」

「ん、あんまりコスチュームにこだわりは。  
あ、でも脇が出る服のときは興奮するみたいで」

「脇フェチか。  
彼氏さん中々業の者だな」



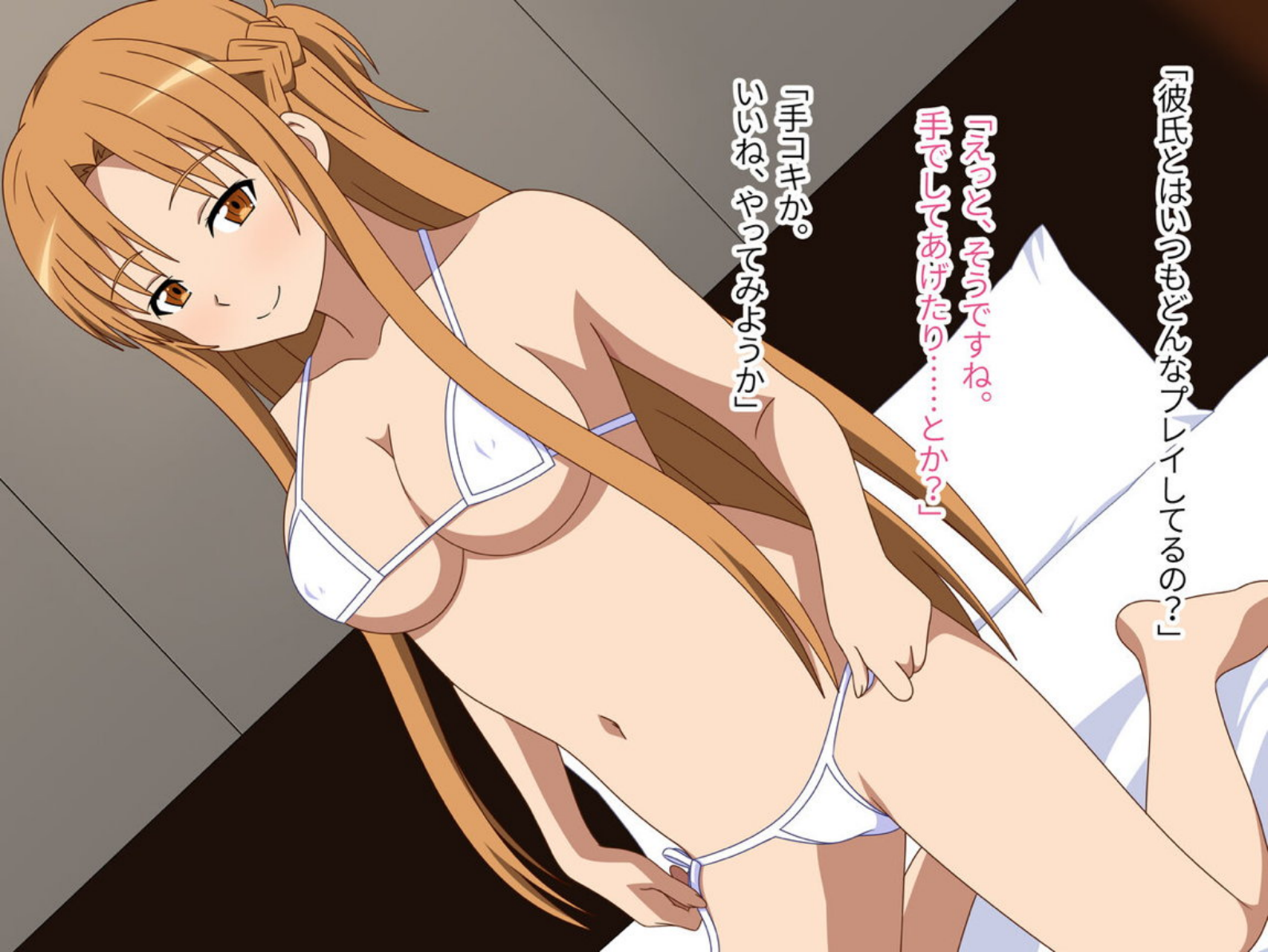
「彼氏とはいつもどんなプレイしてるの？」

「えっと、そうですね。」

「手でしてあげたり……とか？」

「手」キカ。

いいね、やってみようか」



「じゃあ、赤ちゃん言葉使います？  
私、ママになりますんで」

「えっ、赤ちゃんプレイ！？  
か、彼氏とはどうもしてるの？」

「はら」

「そ、そっか……。  
でもそれはちょっといいかな」

「あー、でも彼氏が赤ちゃんプレイ  
したがるのも少しはわかるかも。  
アスナちゃんってバブみすげーわ」

「バブみ、ですか？」

ん  
て  
え





「母性を感じるってこと」

「母性ですが。  
それはちょっと嬉しいかも」

ニ／＼

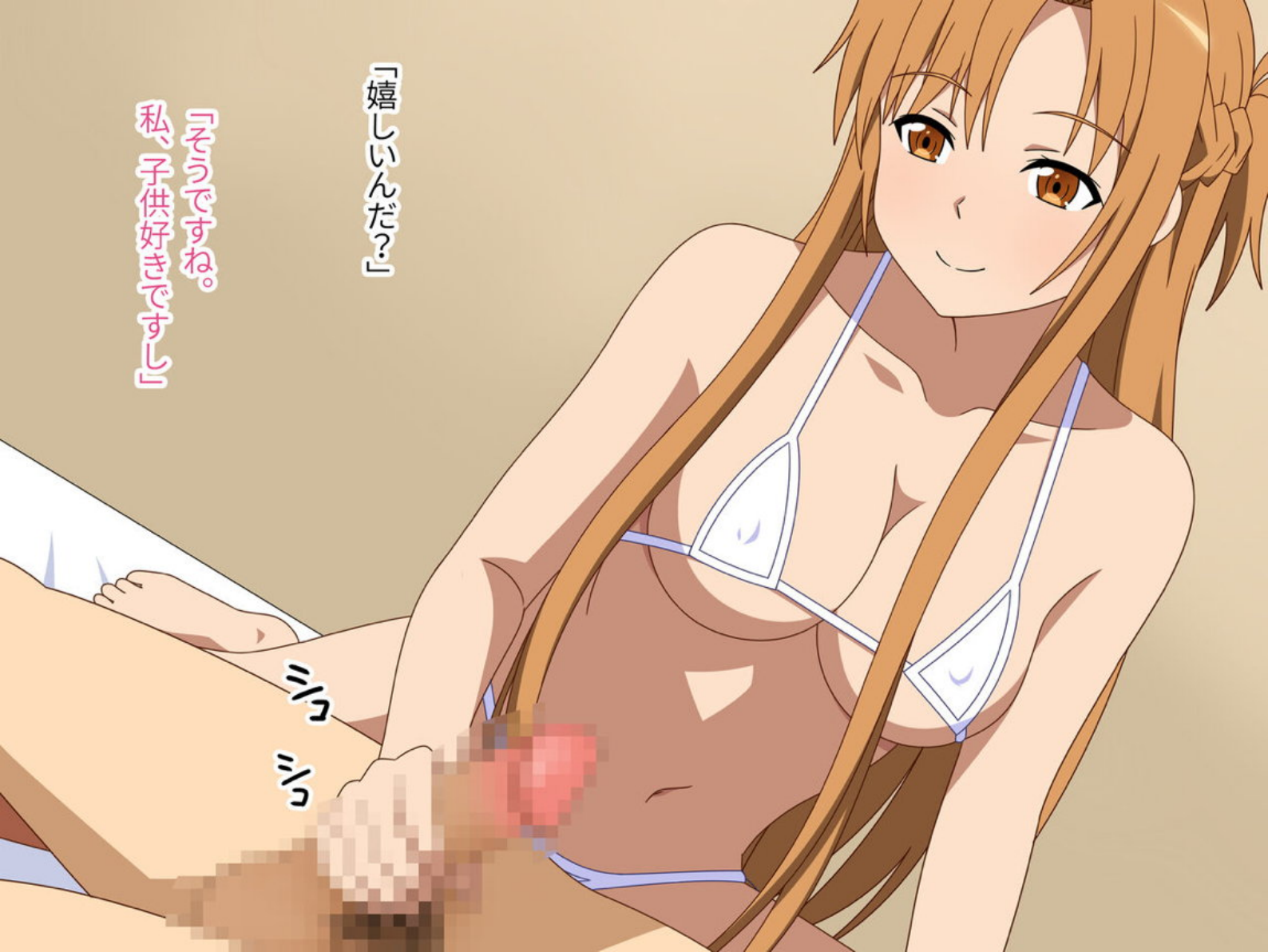
ニ／＼



「嬉しいんだ？」

「そうですね。  
私、子供好きですし」

ニ／＼  
ニ／＼





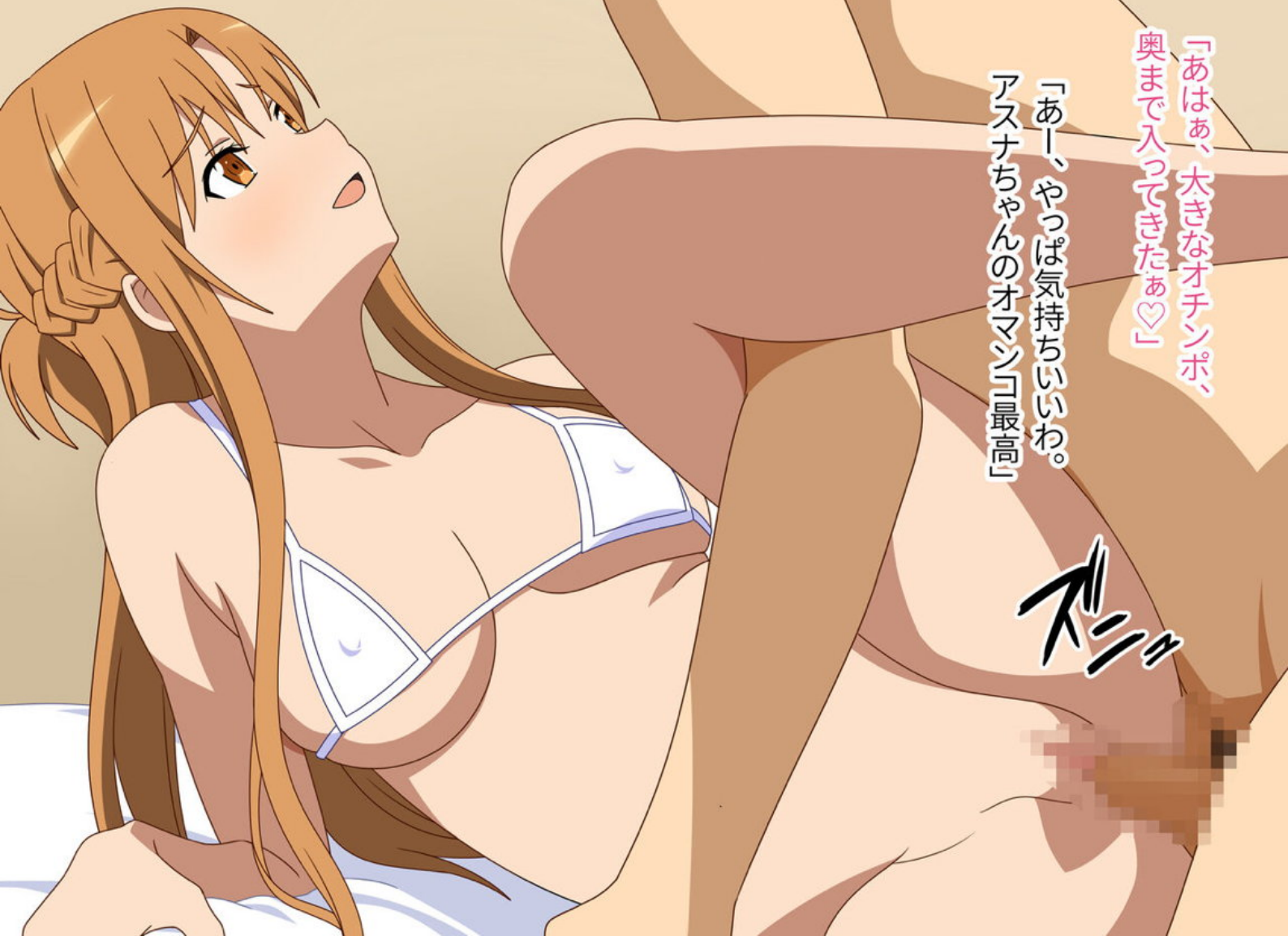
「あつ、アスナちゃんストップ。  
これ以上やるとイッチャうから。  
どうせならアスナちゃんも気持ちよくなろうっ」

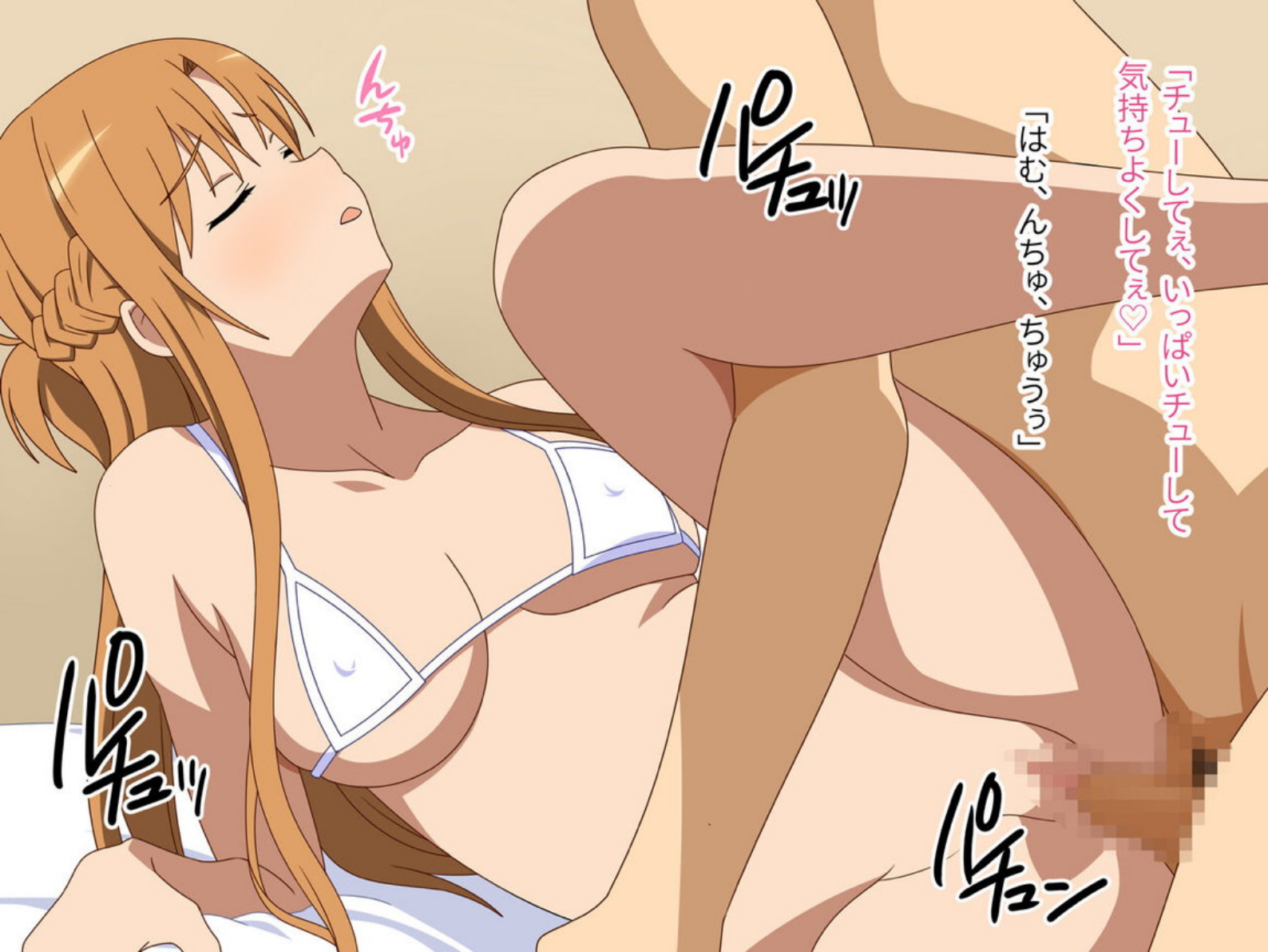
「ほー♡」

「あはあ、大きなオチンポ、  
奥まで入ってきたあ♡」

「あー、やっぱり気持ちいいわ。  
アスナちゃんのオマン」最高」

ズニャ





んちゅ

んちゅ

「チューしてえ、いっぱいチューして  
気持ちよくしてえ♡」

「はむ、んちゅ、ちゅっ」

んちゅ

んちゅ

「ぷはあ、またオチンポ大きくなってる。  
イクの、イツっちゃうのお?」

「ああ、イキそう。  
イクよ、アスナちゃん。  
またオマン」に出すから。  
妊娠してもいいんだろ?」

イク

イク

イク



「きてえ、いっぱい種付けしてえ、  
赤ちゃん妊娠させてえ！」

「んっ、んっ」

ド  
ク  
ク



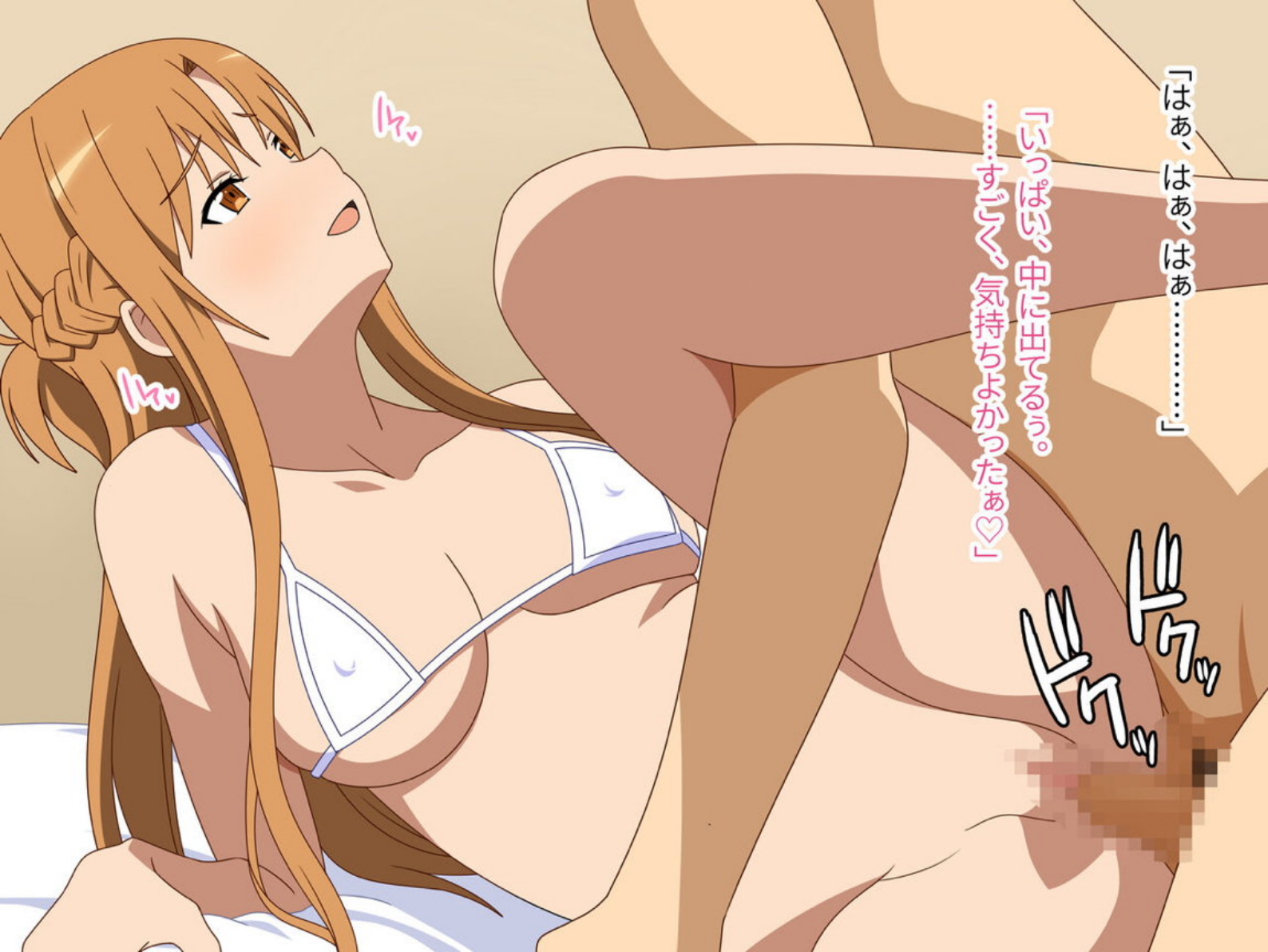
「はあ、はあ、はあ………」

「うっはっ、中に出てるう。  
……すっく、気持ちよかったあ♡」

ハッハッ

ハッ

ハッ







「あー、もう我慢できねー。」

ムネ、撮影代われ。兄貴、次は俺がやる」

「あんまり乱暴にするなよ?」

「わかってるって。よし、挿入すんぞ」

「はあん!」





「どうよアスナちゃん、兄貴あにいもうとのと比べて」

「んん……大きさ、的には  
さっきの方が……」

「なにいい……それなら俺のどつておきで  
イかせてやるからな」





「んっ……とっつて、おちんこっ」

「喰らえ、ピストン八連撃  
《ヴォルカニック・ブレイザー》!」

「えっ、それって……」

おん

「おーおーおーおーおーおー」

「んはあ！ あっ、ダメ、  
オマンコ、奥突かれてイク、  
イッてるからあ！」

「よーし、俺もイクぞ！  
このまま孕め！ 孕んじまえ！」

「びゅっ、ふあああああ……んんっ！」

おん  
おん  
おん

「はあ、はあ、はあ……」

「ふう、キリトには悪いが  
最高だったぜ、アスナちゃん。  
今回のみって話だったけど、  
また出演したくなるときはよろしく」

「……ふぁーい♡」



「それじゃあ最後に学生証をのせてっと。  
あくまで高校ではないし、年齢も十九なんです  
合法ですって。  
ほら、アスナちゃんも笑って笑って」

「あ、あはは……!」



「これで最後ですね」



|||||  
|||||  
||||| ...

削除済み



動画を再生できません

この動画はアップロードしたユーザーにより削除されました






「これでネット上のママの  
動画はひとつ残らず削除  
しました」

あはっ

「ごめんね、ユイちゃん」

「今後もネット上に流れたら自動的に  
削除されるようにしましたが……そもそも！  
ママは何でこんな動画に出演したんですか」

「最近キリトくんもマンネリだったし、  
ちよっとした刺激が欲しくて。  
あとまあ、不満も少しあって、ね」



「確かに。パパの男性器は  
世の平均よりもやや控えめな  
短小と呼ばれる部類のもの  
ですし、エッチの際に技名を  
連呼するのはいかななもの  
かと思いますが……」

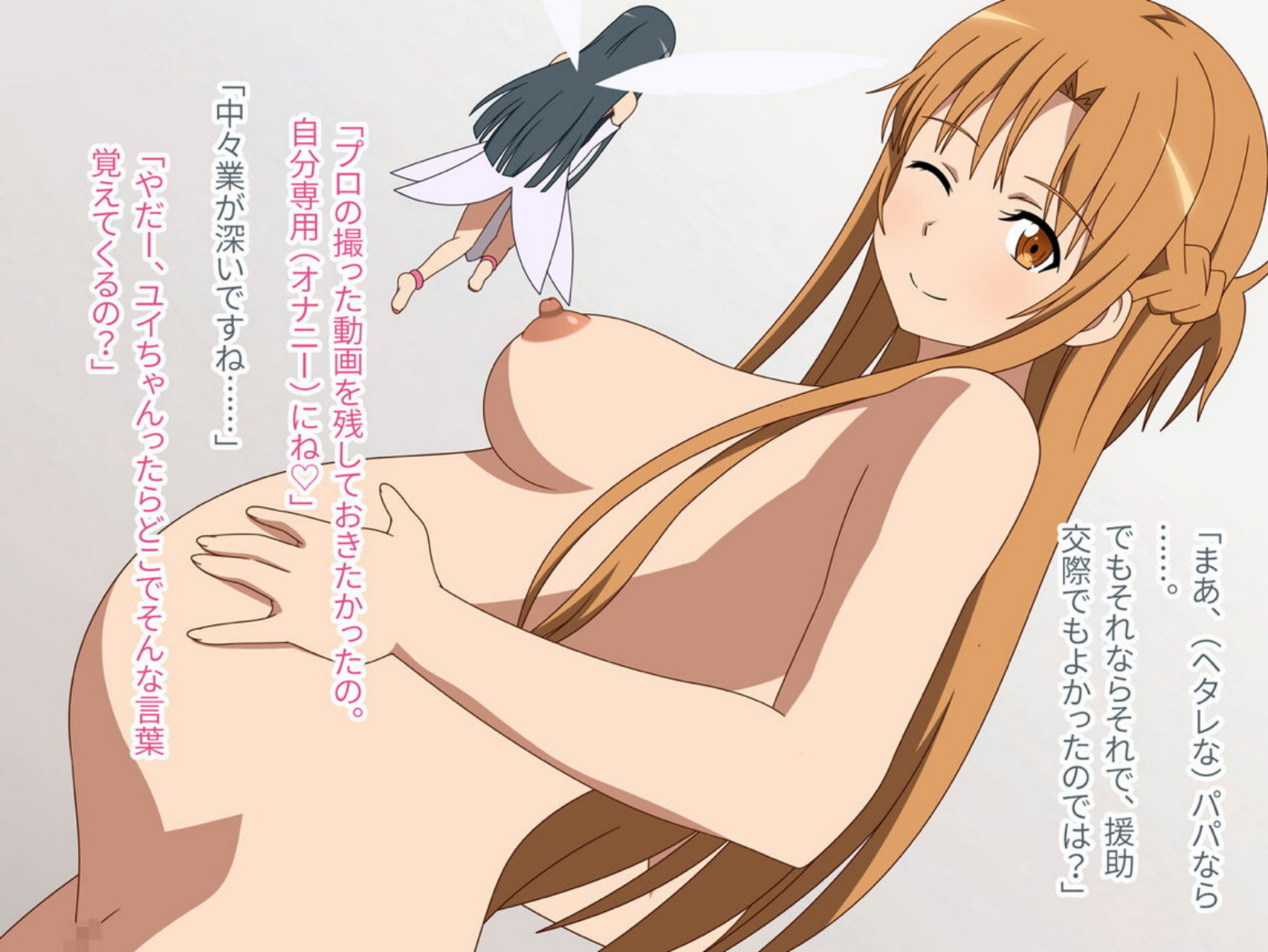
「いや、まあ、そこは可愛らしくって  
いいと思うのよ？  
ただ持久力がないし、精子の量も  
少なめだから中々妊娠しないところが  
不満っていうか」

「こうして早くユイちゃんに  
兄弟も作ってあげたかった  
のよね」

「パパの子じゃなくていいんですか?」

「それを言ったらユイちゃんとも  
血の繋がりはないわけだし。  
キリトくんなら受け入れてくれるって  
信じてるわ」



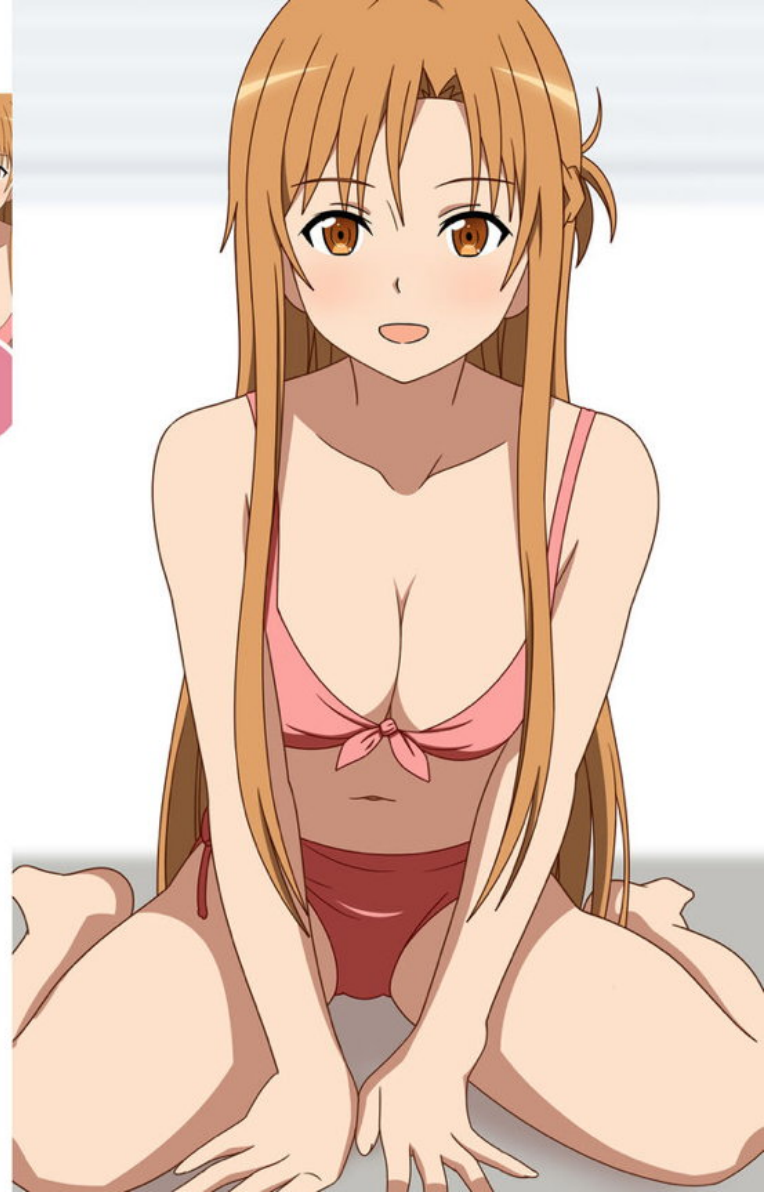
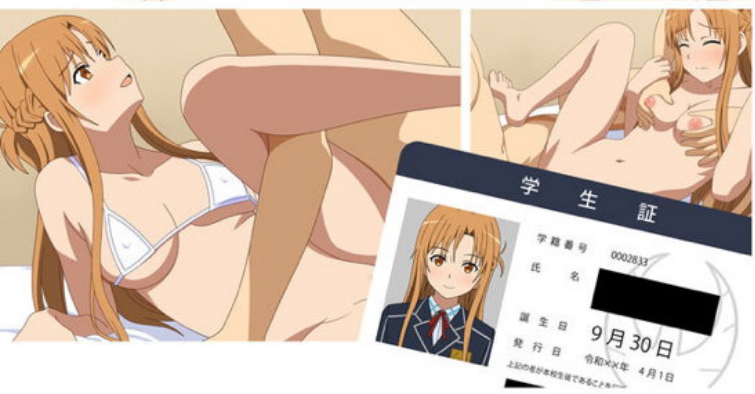
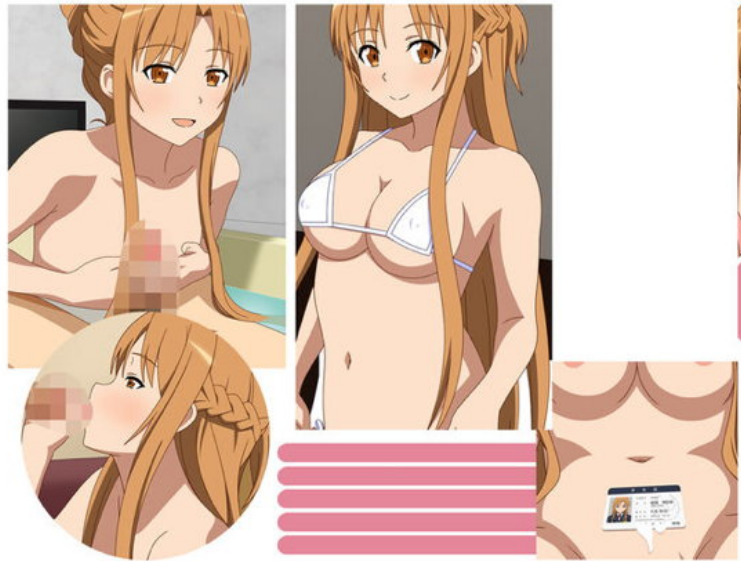


「まあ、(へたれな)パパなら  
……。でもそれならそれで、援助  
交際でもよかったのでは？」

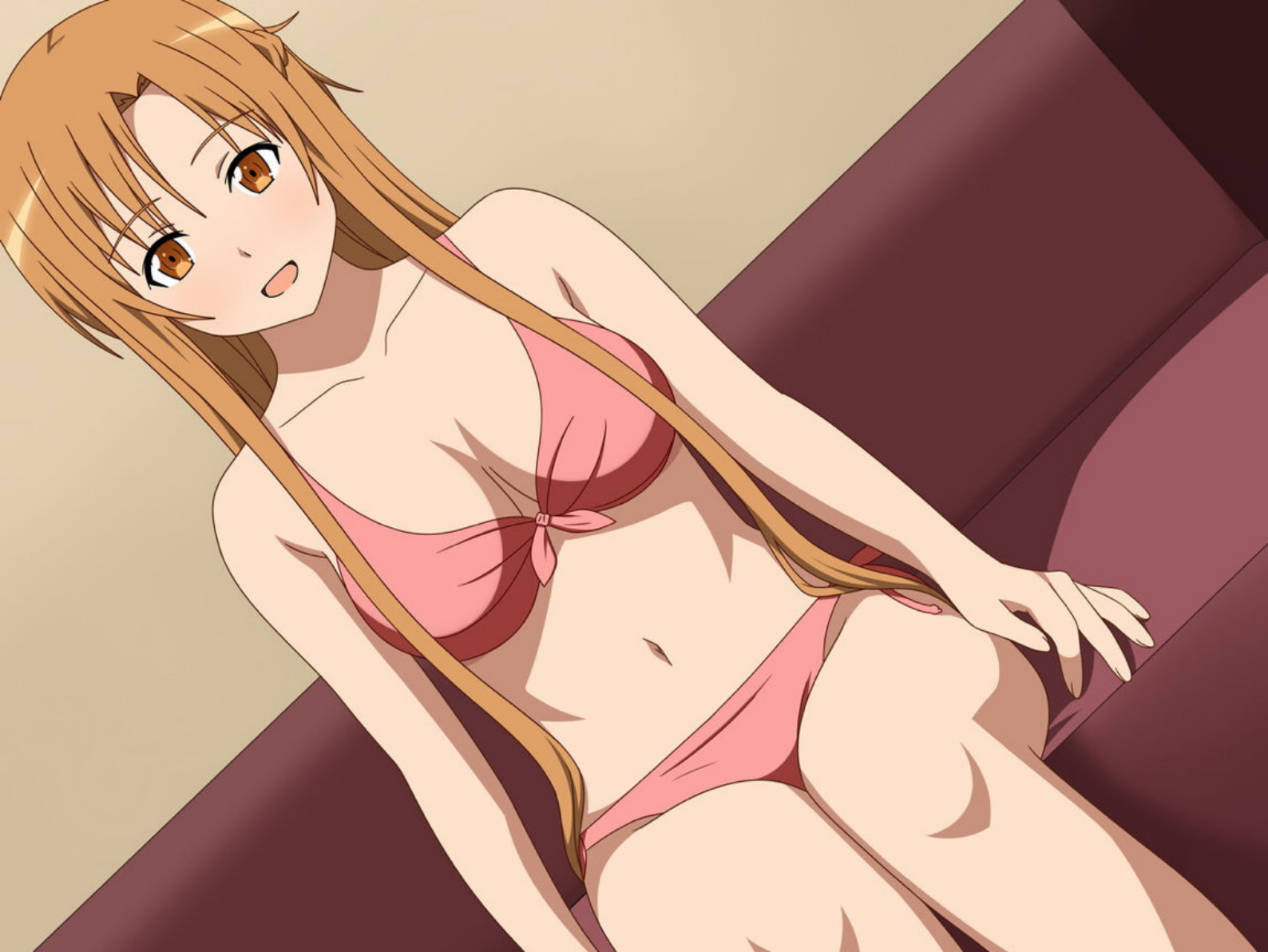
「プロの撮った動画を残しておきたかったの。  
自分専用(オナニー)にね♡」

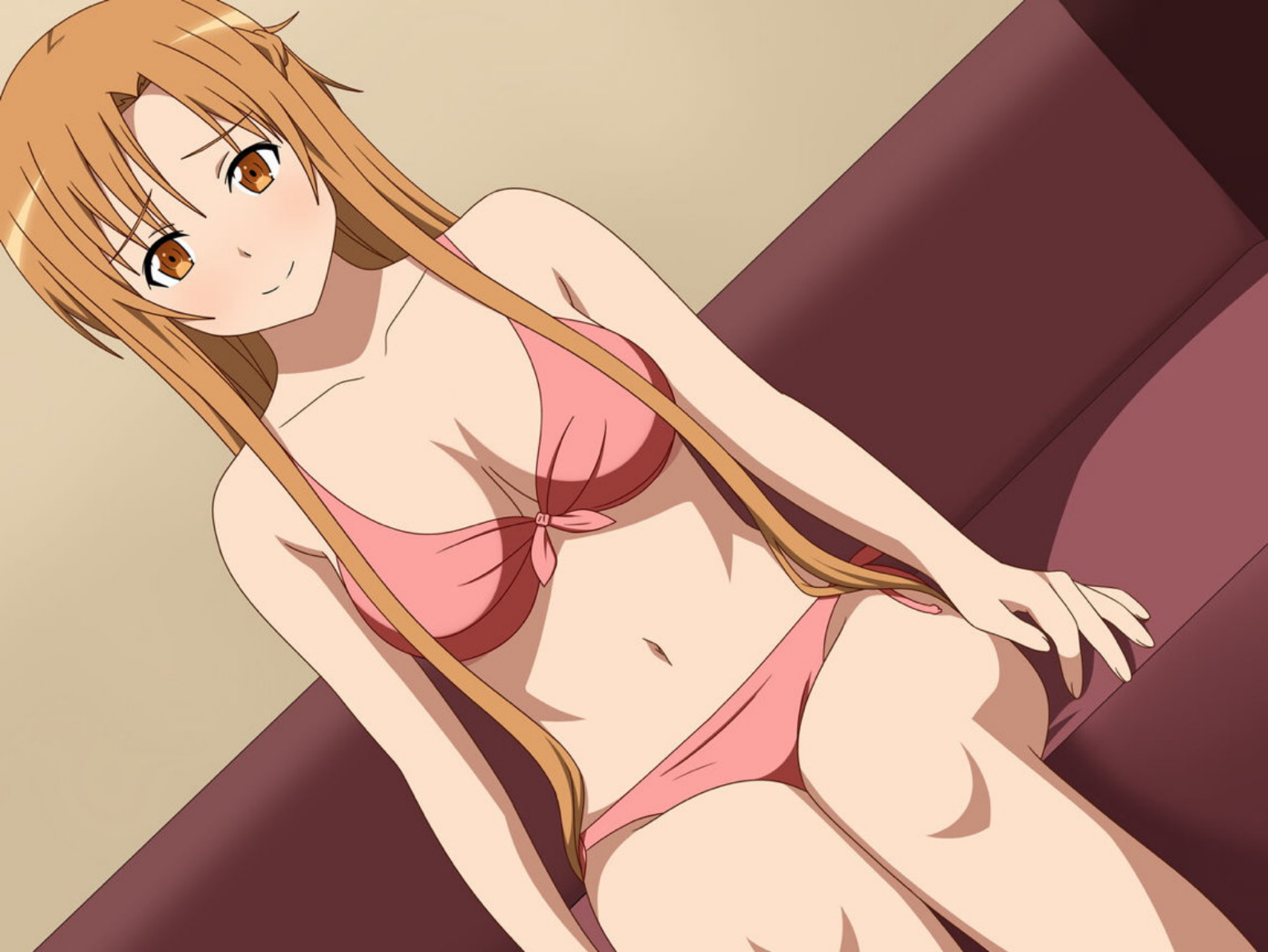
「中々業が深いですね……」

「やだー、ユイちゃんだったらどこでそんな言葉  
覚えてくるの?」

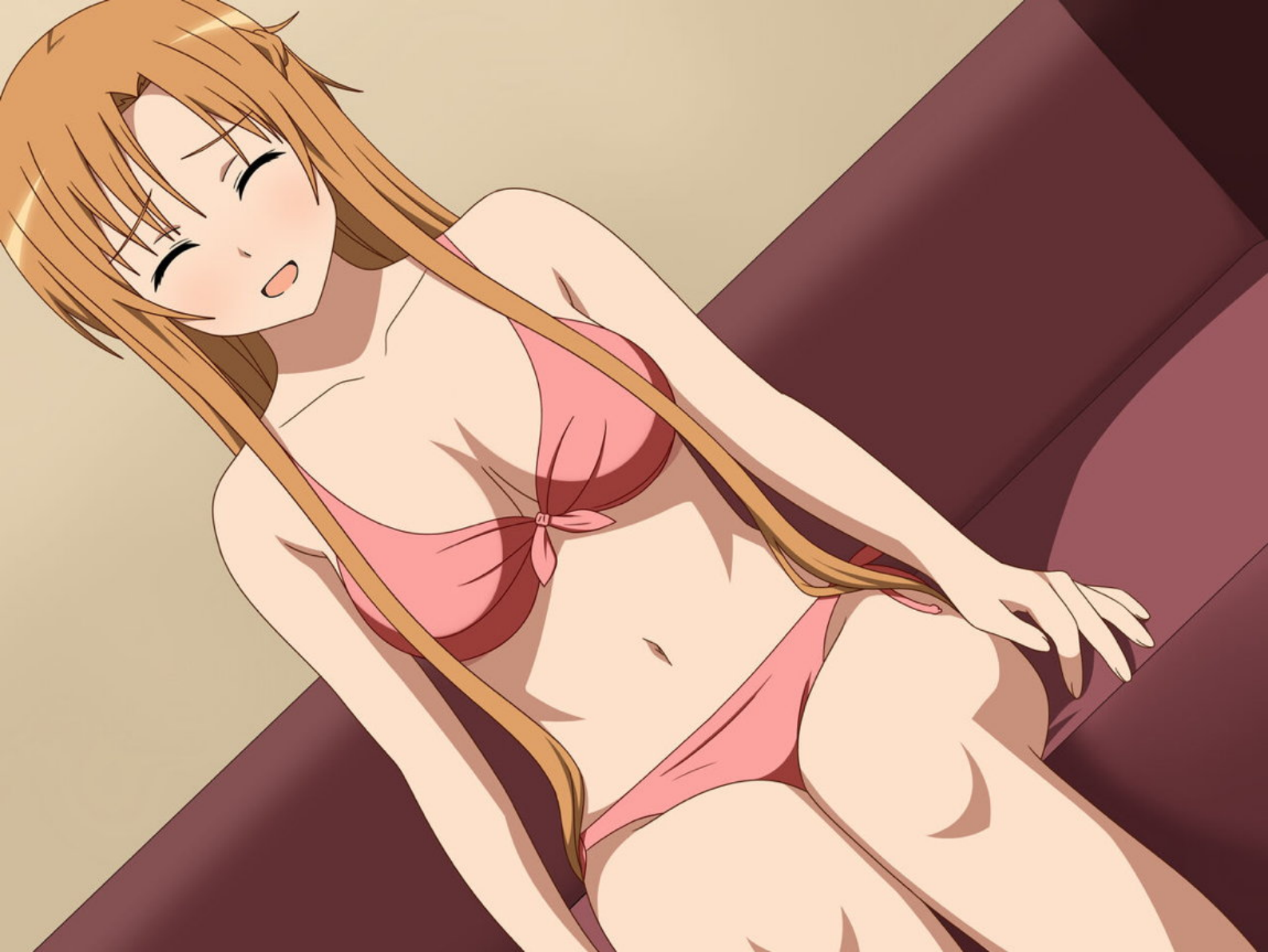


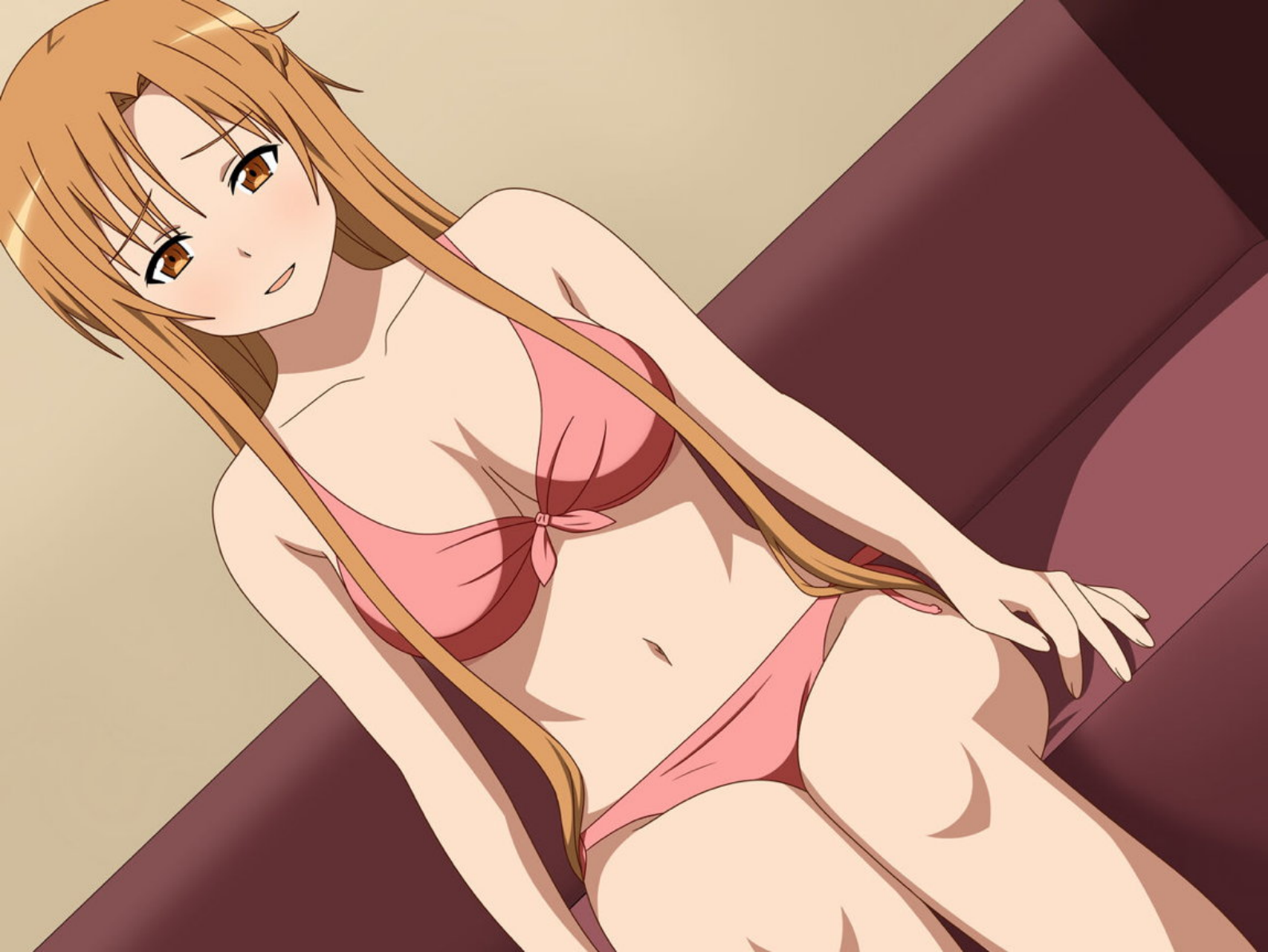




















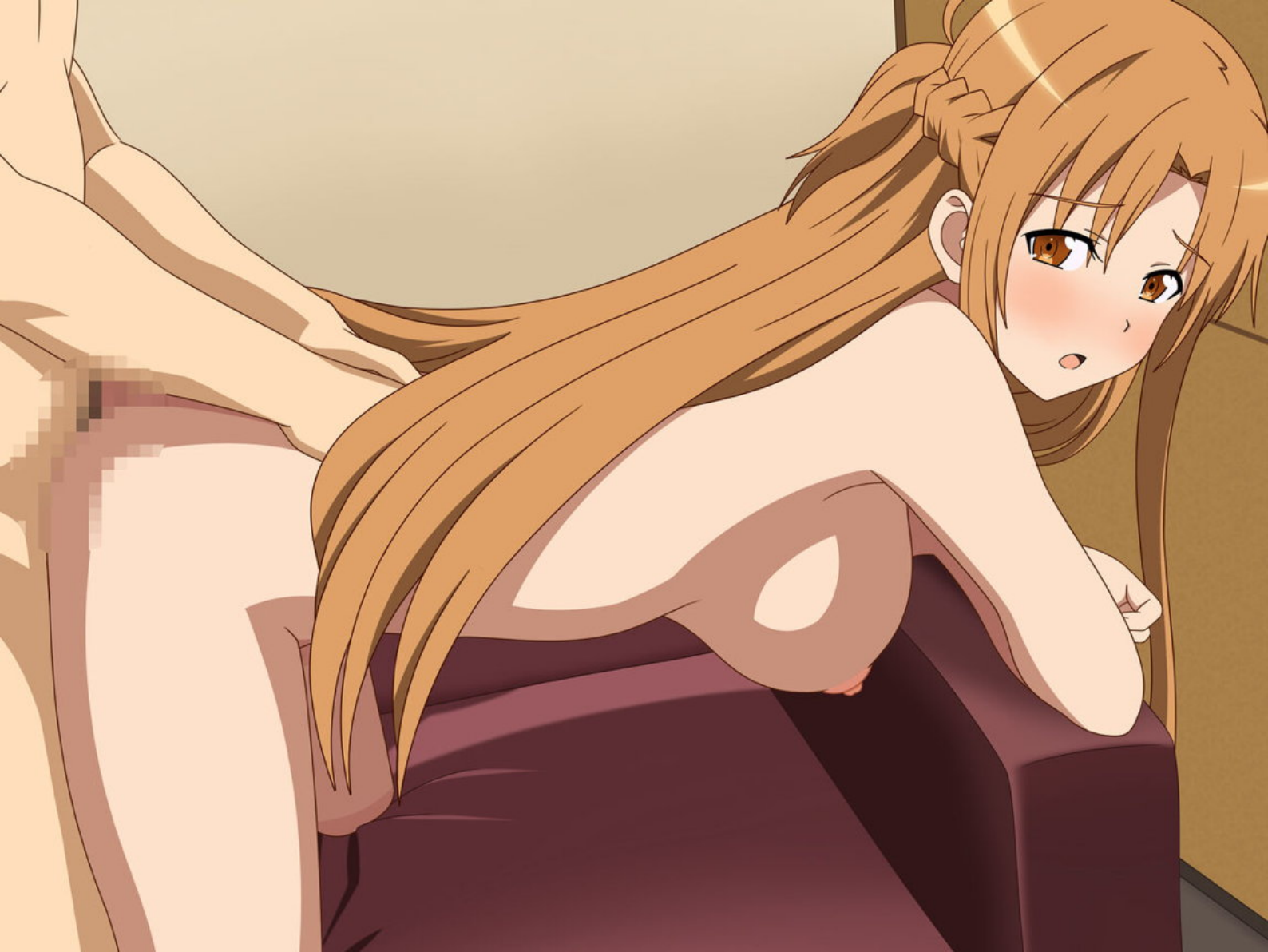


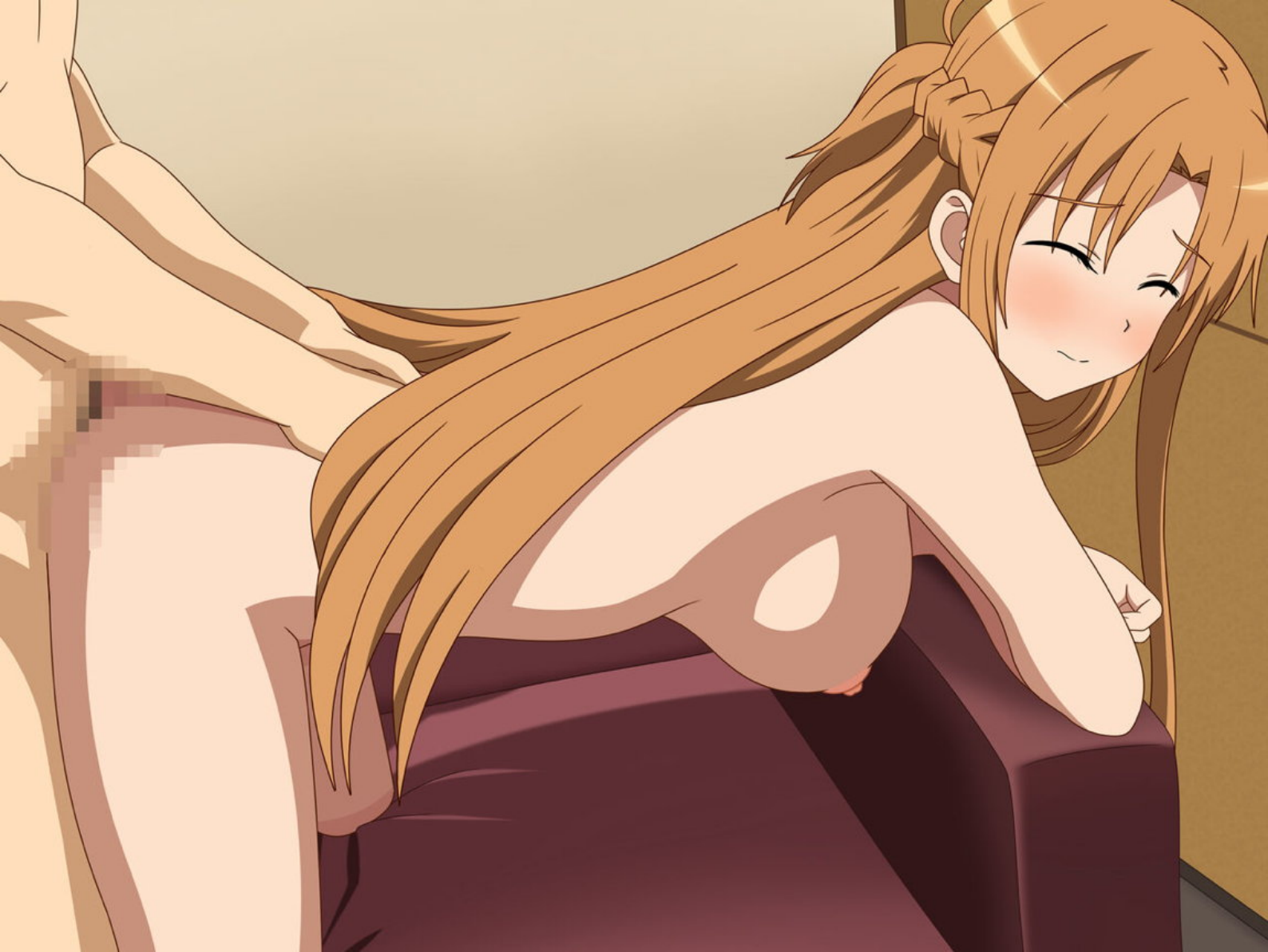


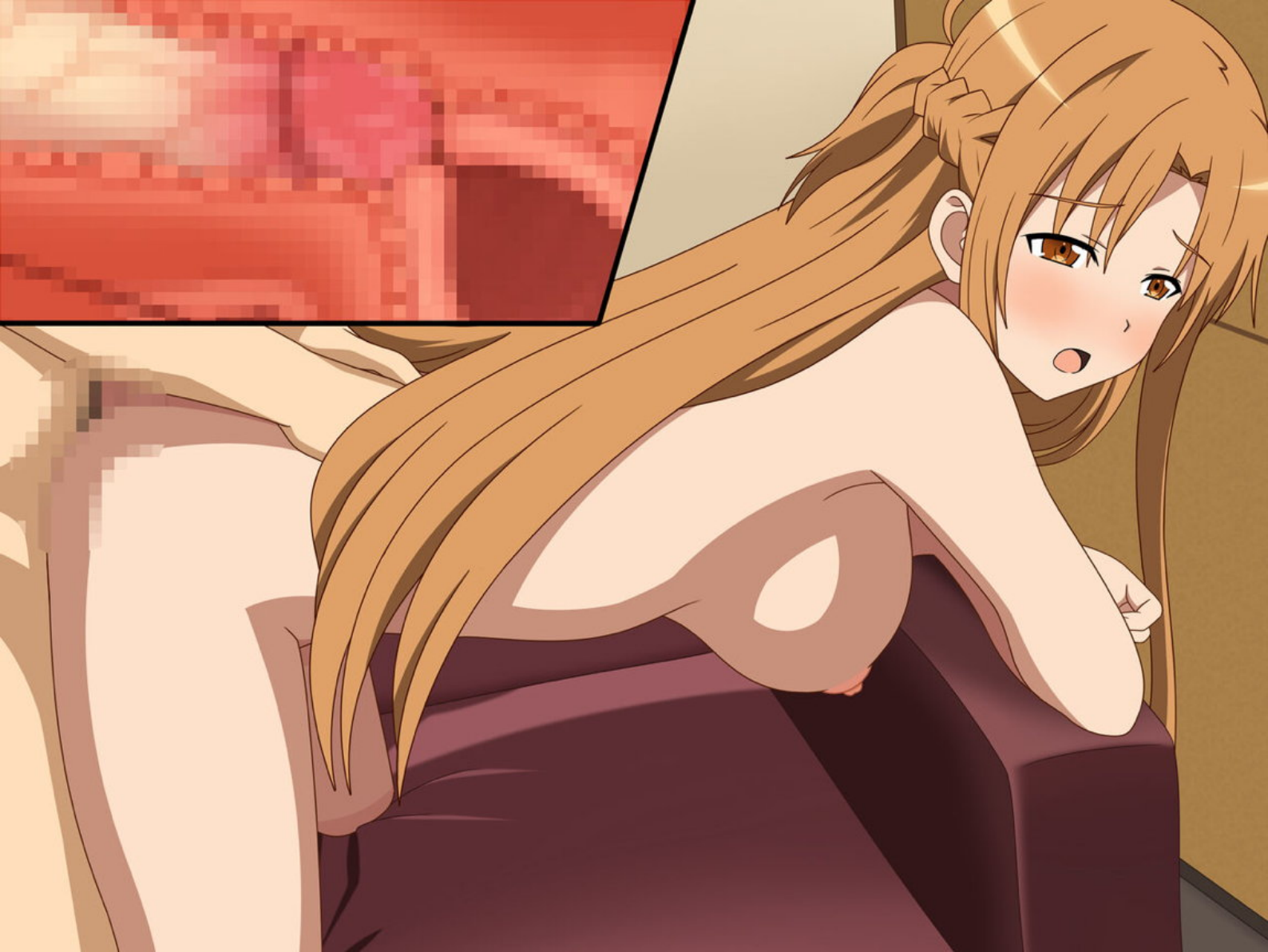


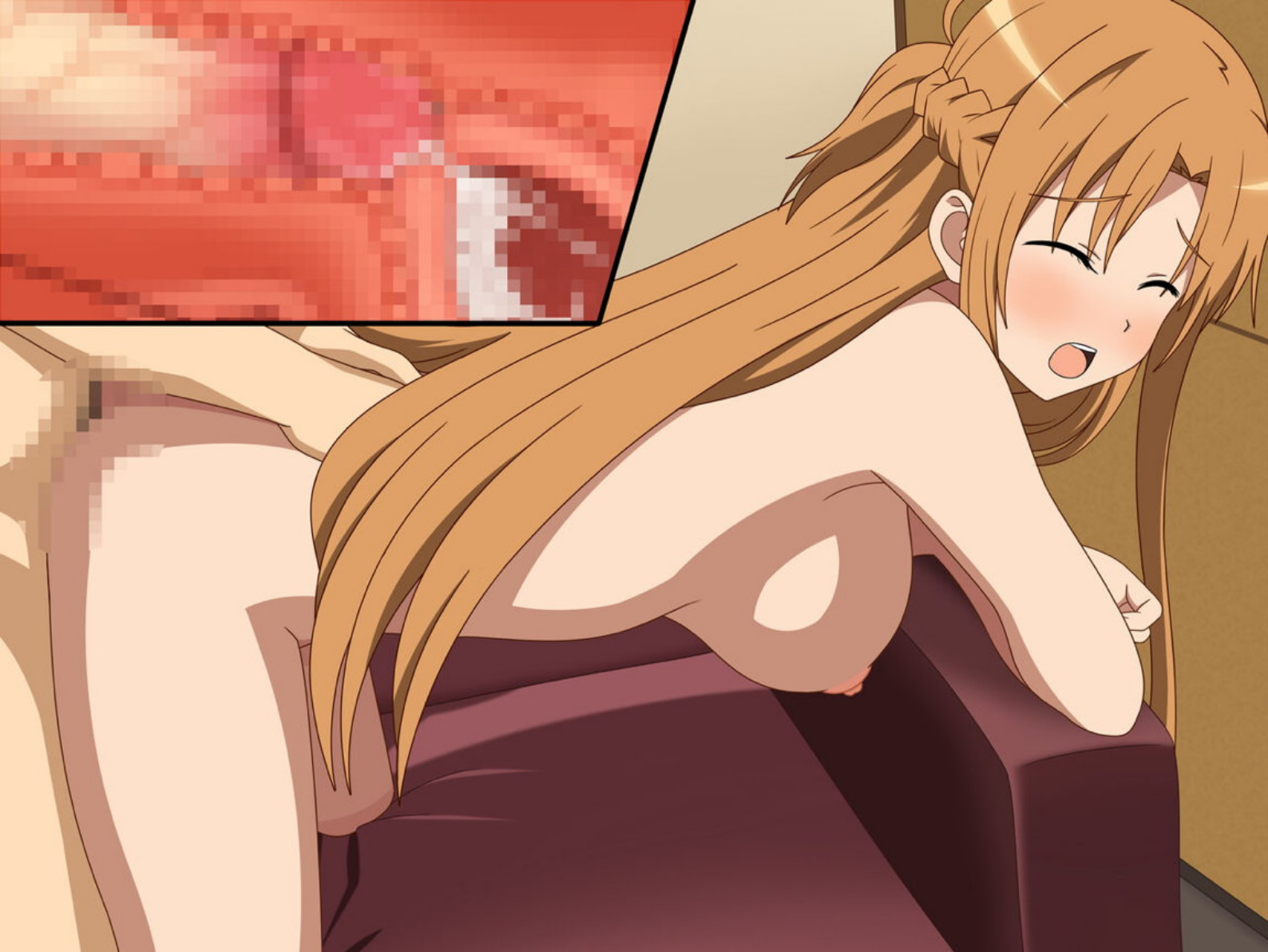






















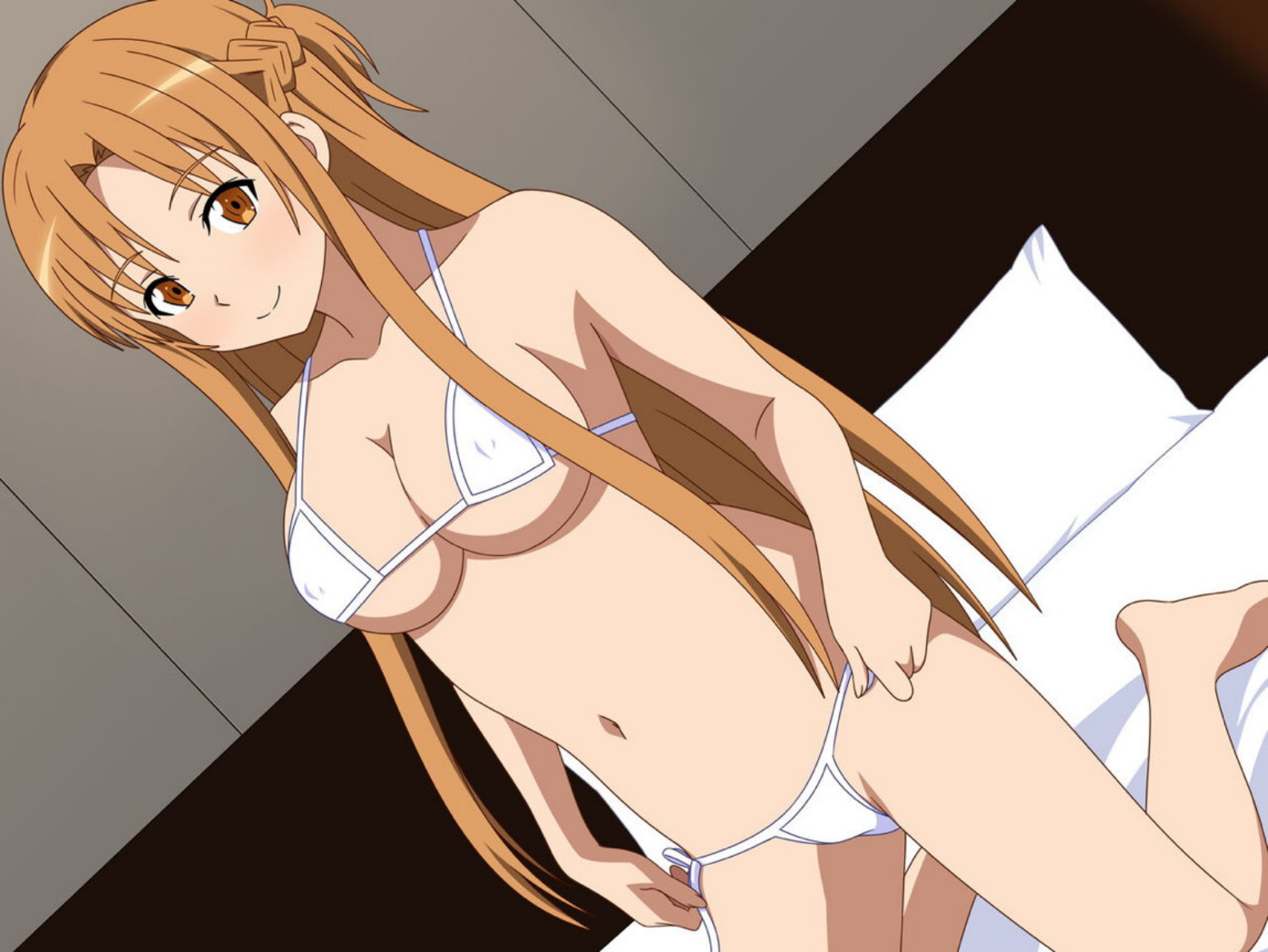






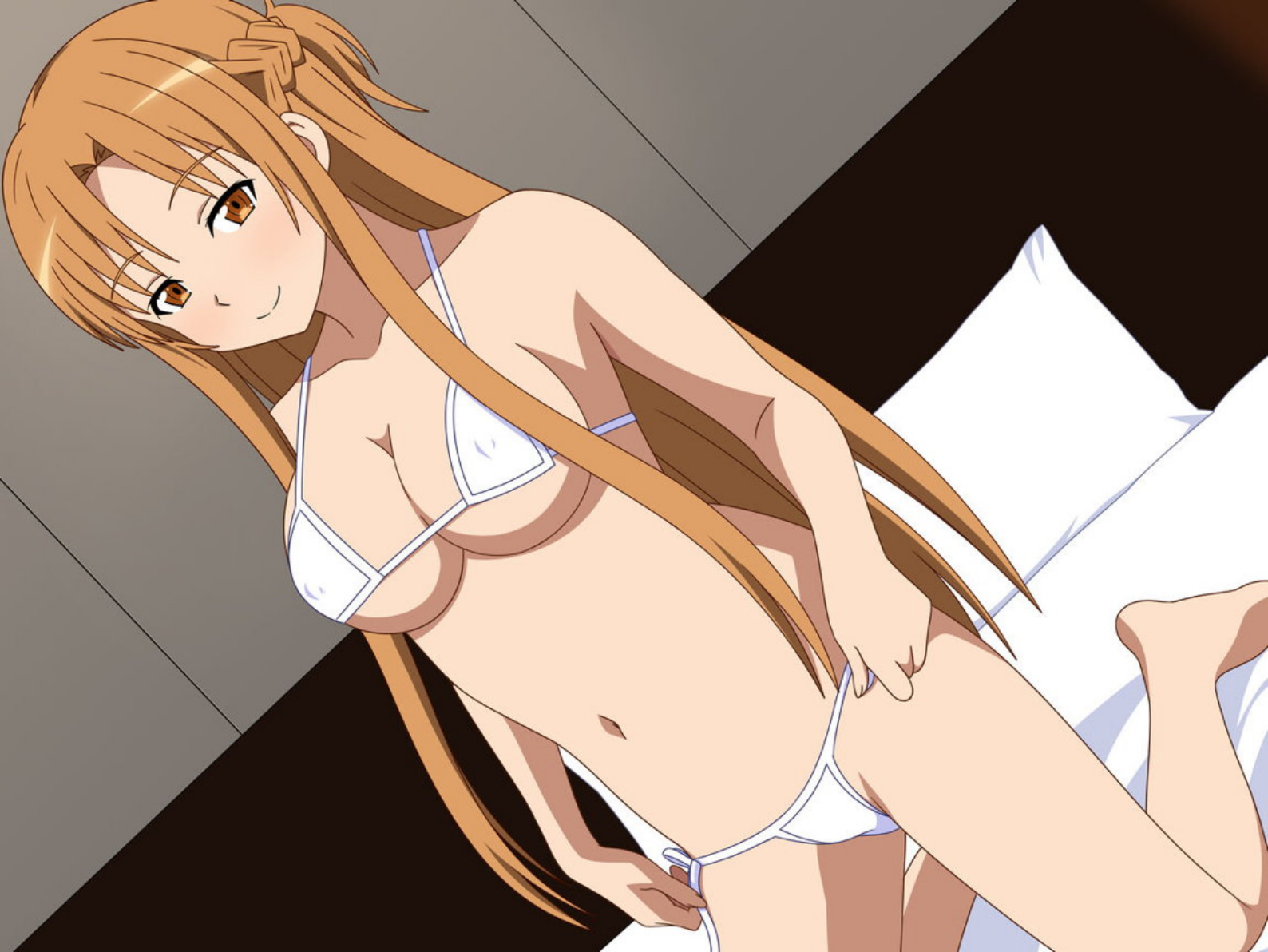




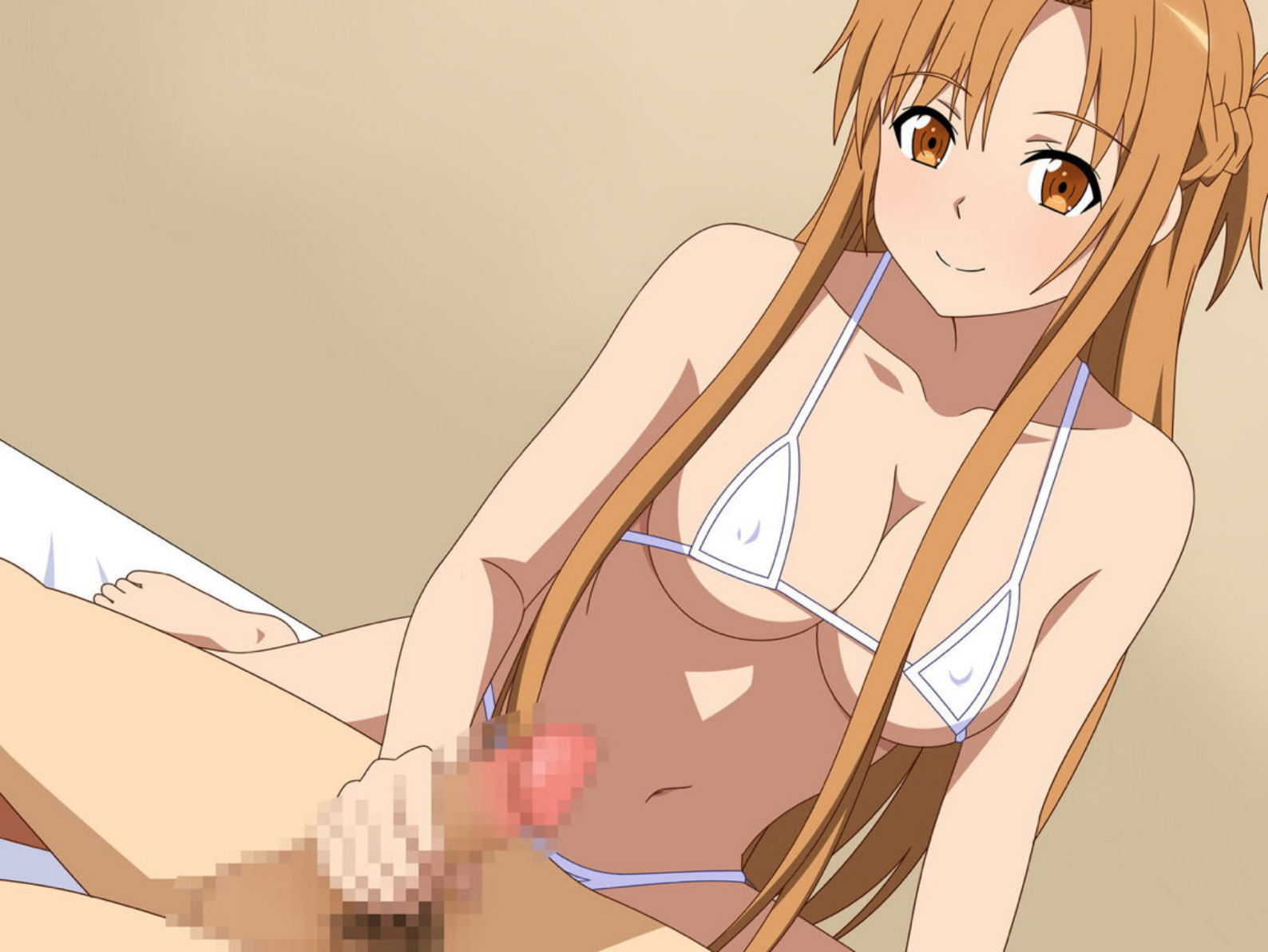


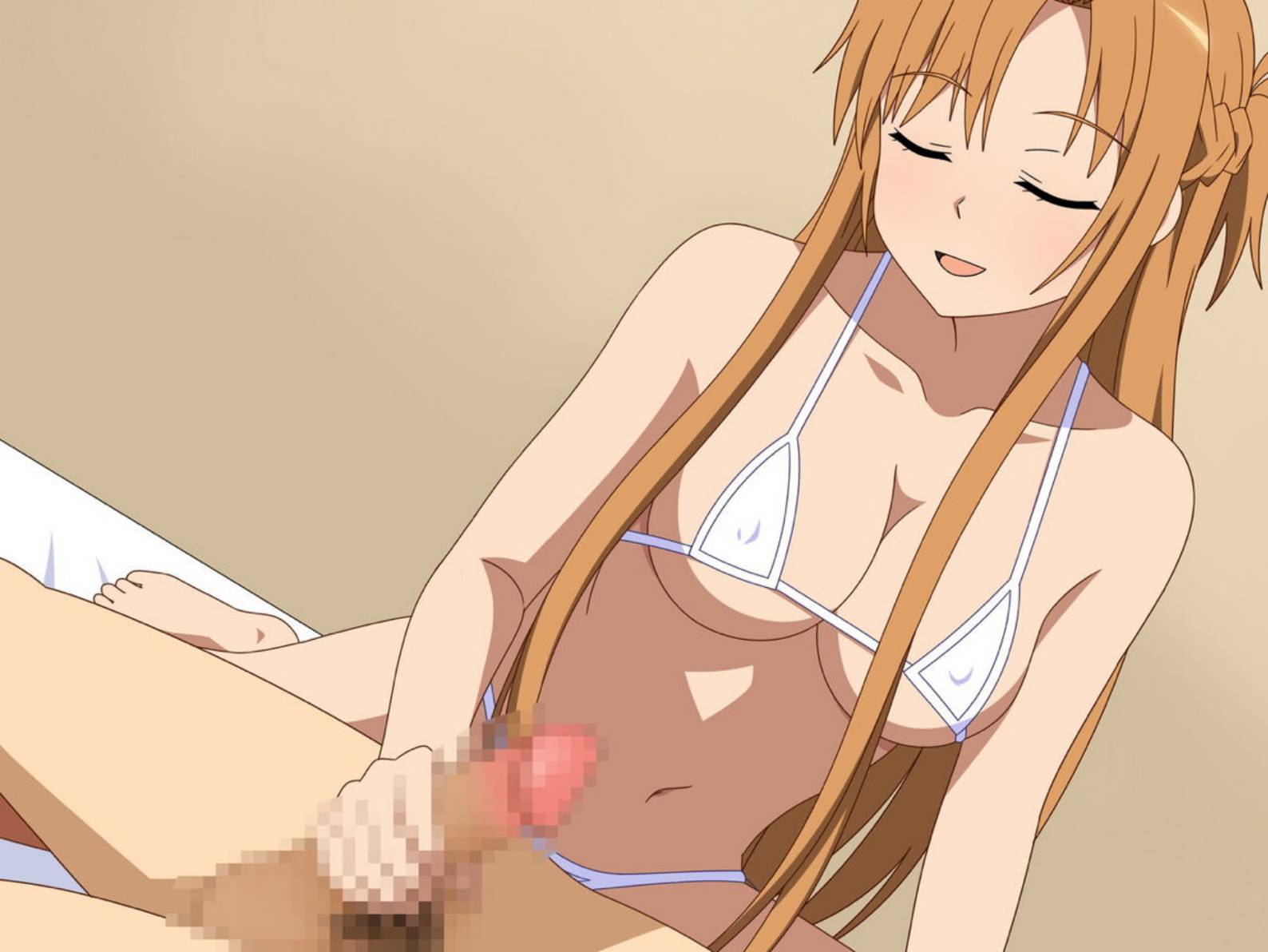


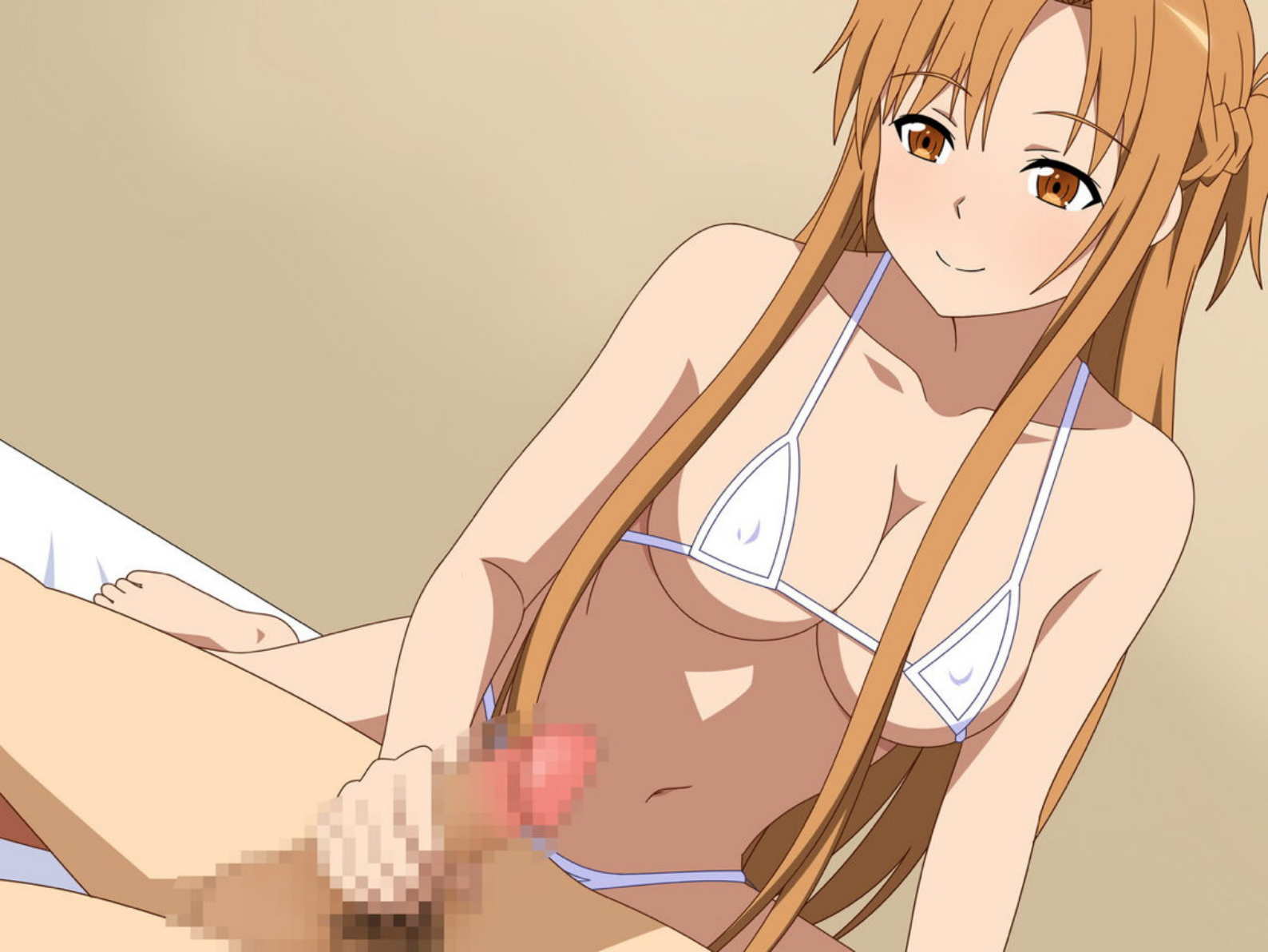


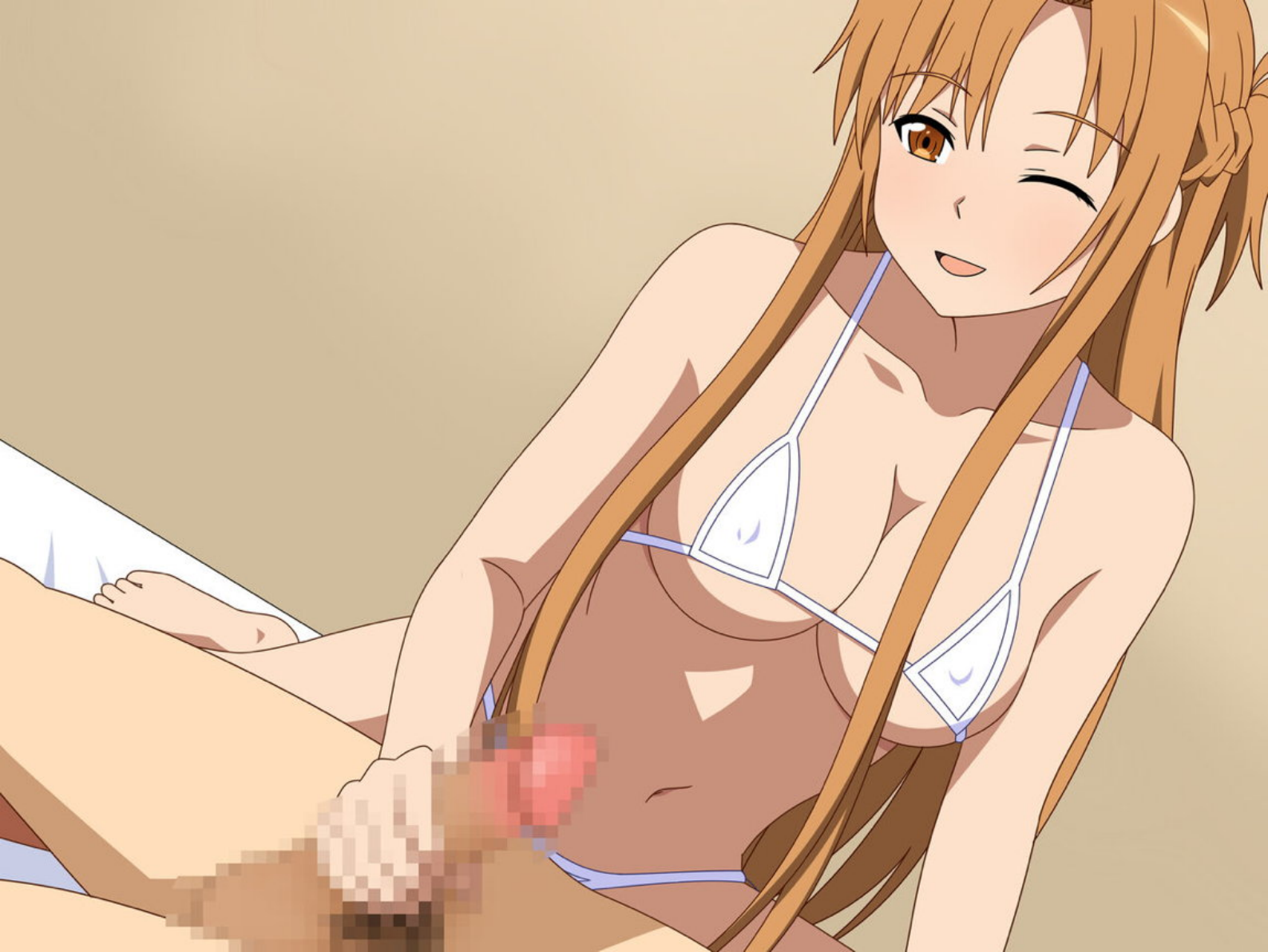






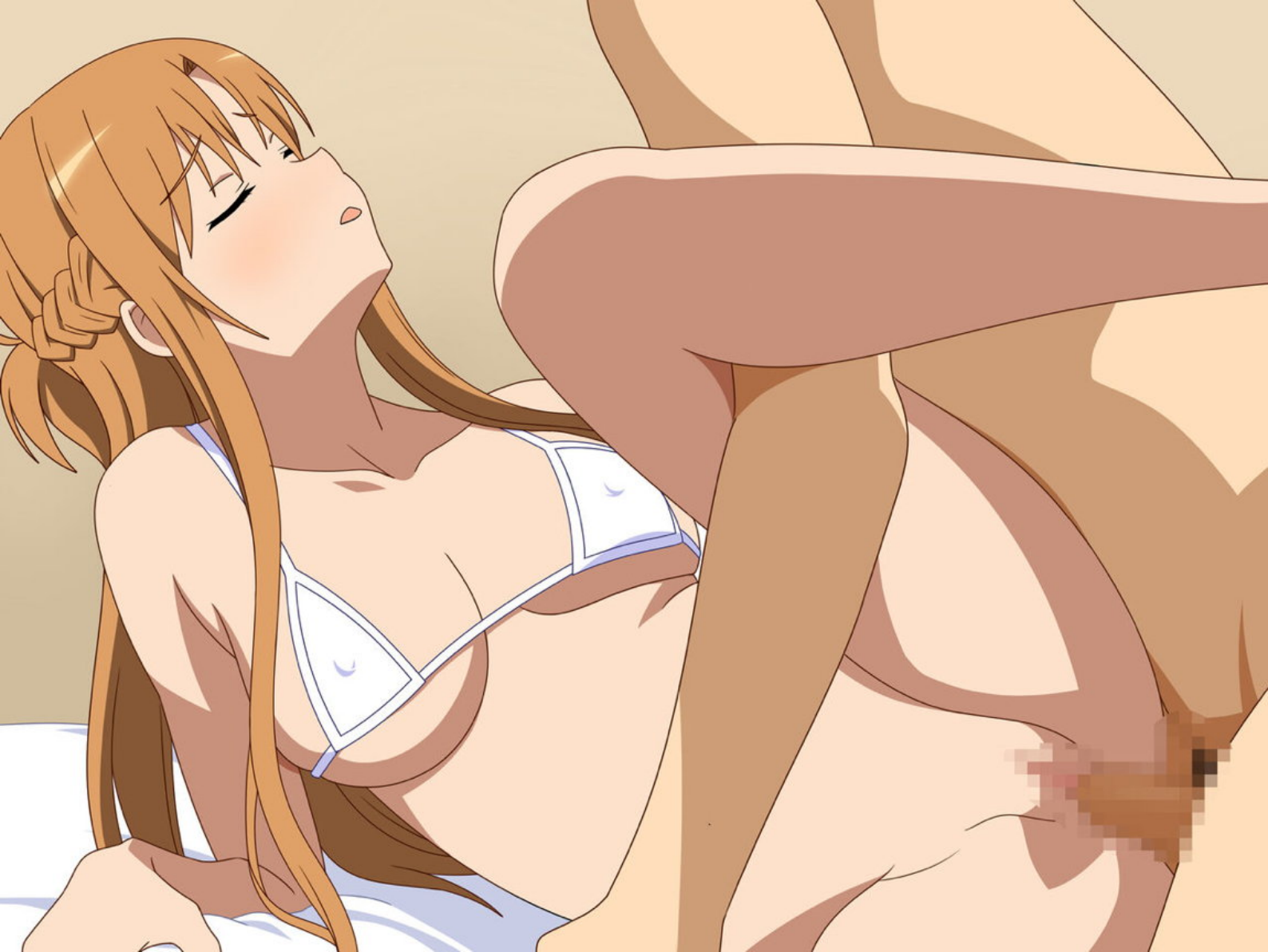


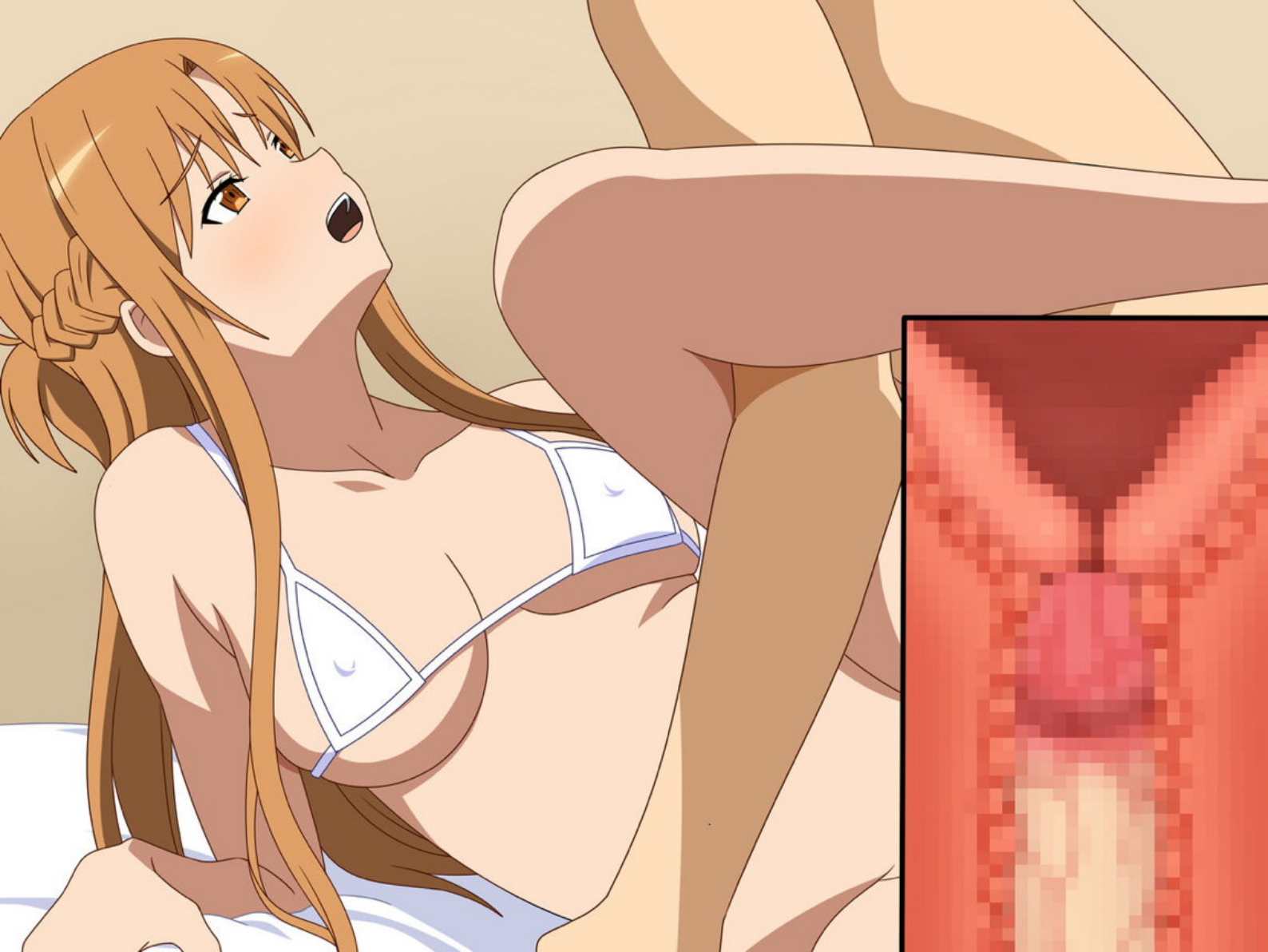


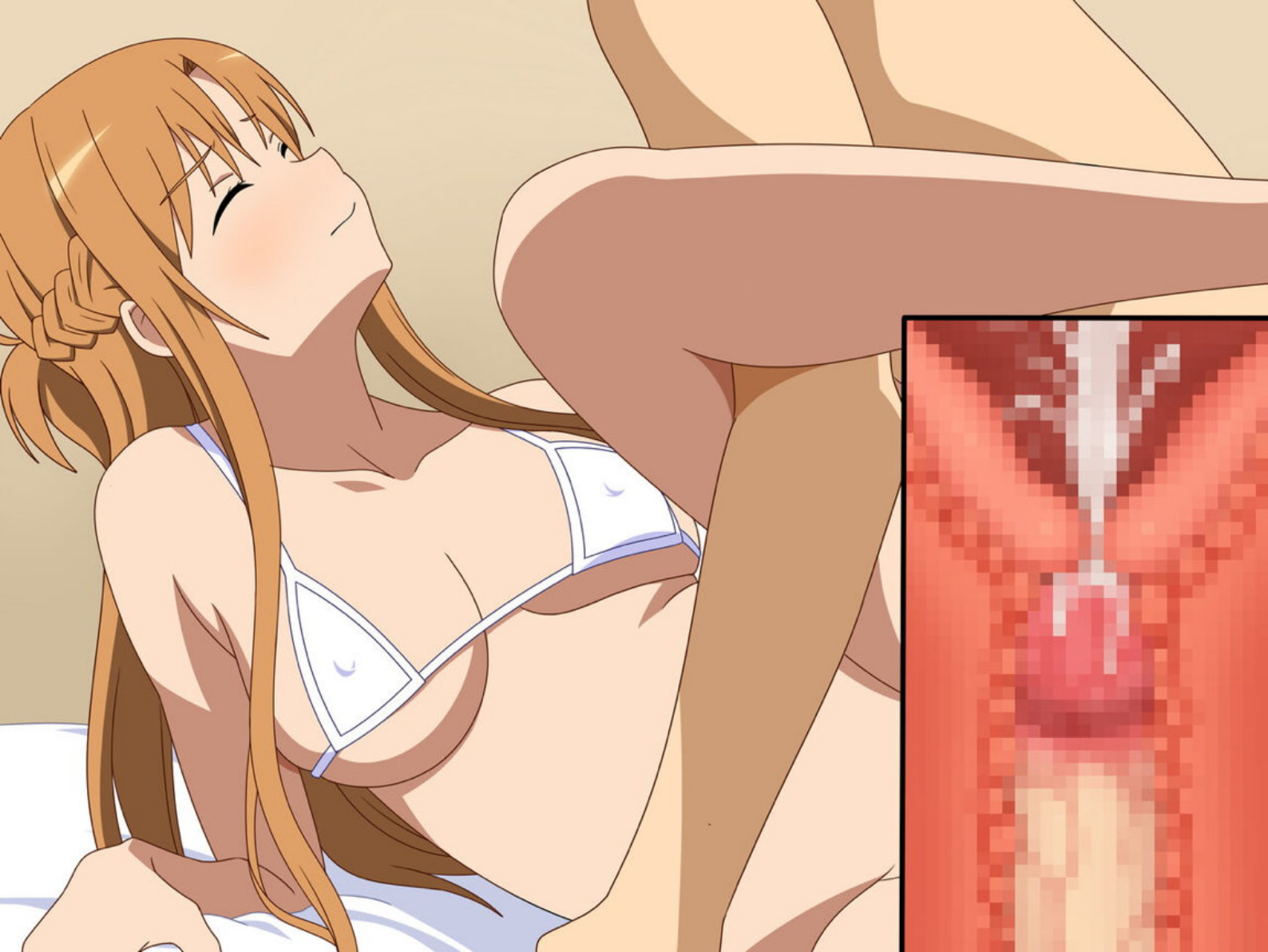


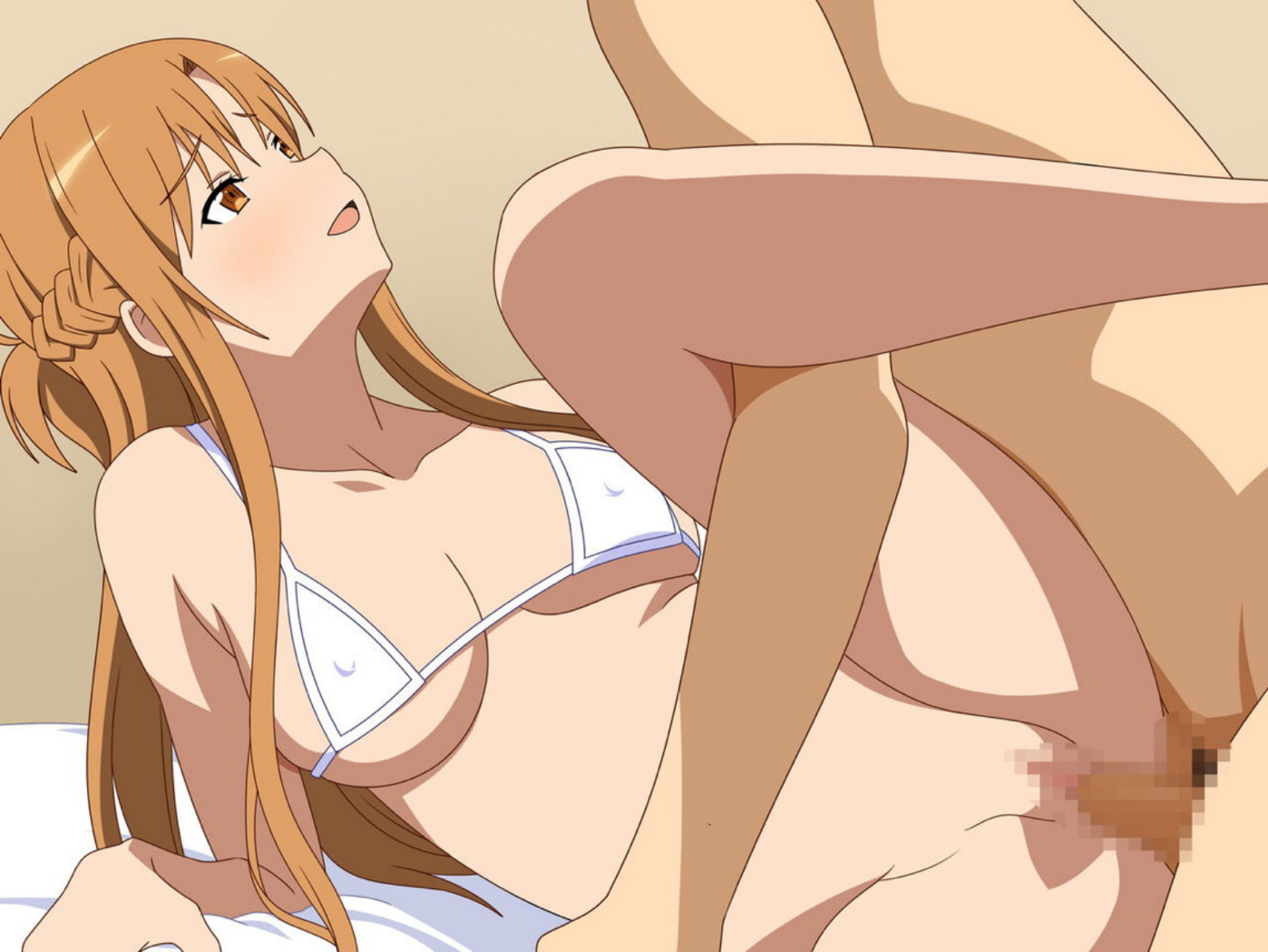














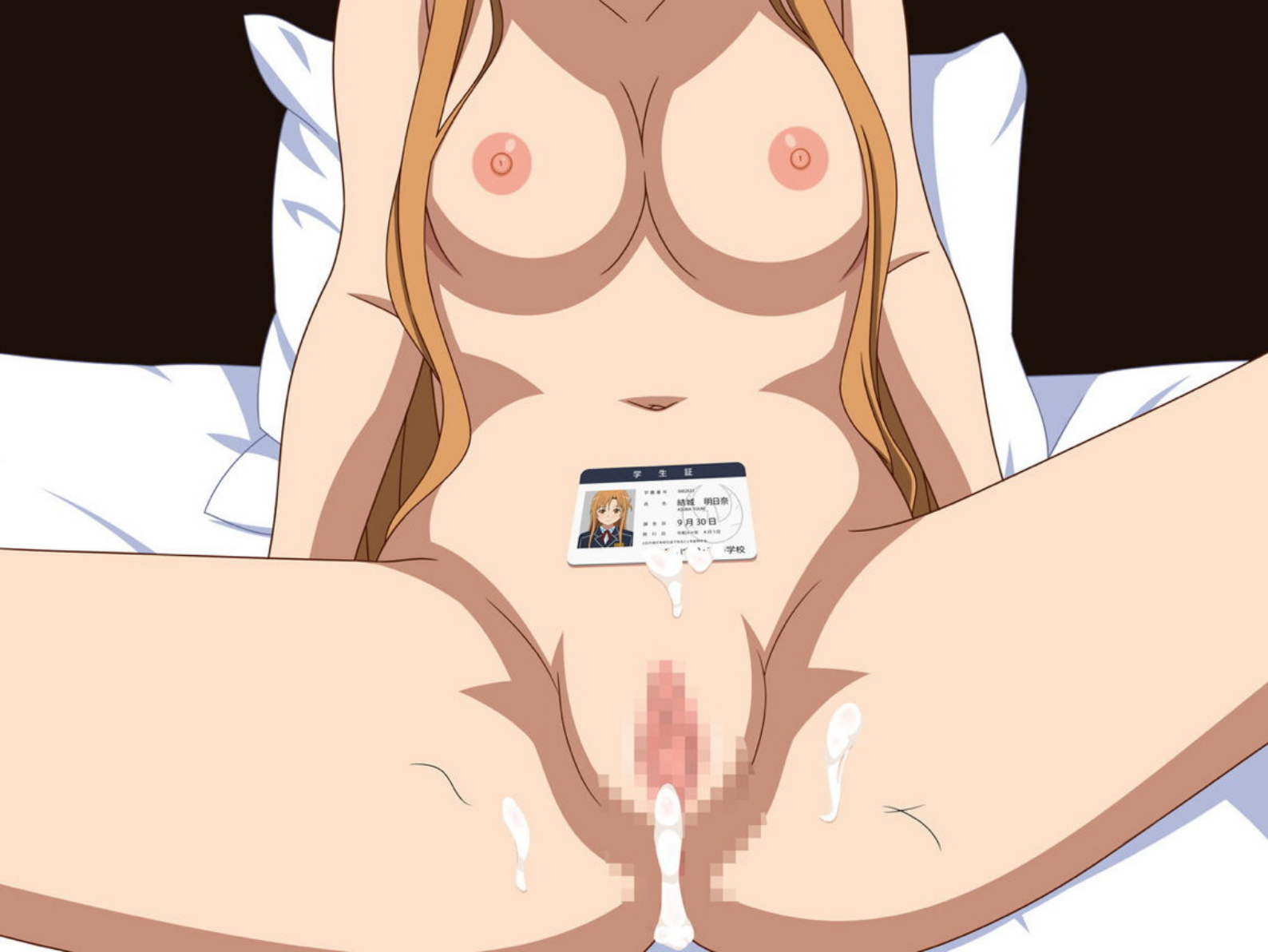














学生証

	所属 橘 明日奈 9月30日
学校	



**動画を再生できません**

この動画はアップロードしたユーザーにより削除されました











学 生 証



学籍番号 0002833

氏 名 結城 明日奈  
ASUNA YUUKI

誕生日 9月30日

発行日 令和XX年 4月1日

上記の者が本校生員であることを証明する。

学校